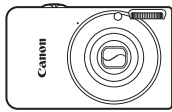
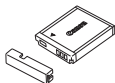
Canon

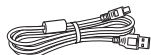
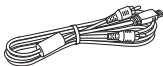
IXY 200 F
カメラユーザーガイド

日本語

- ご使用前に必ずこのカメラユーザーガイドをお読みください。
- 将来いつでも使用できるように大切に保管してください。
- CD-ROM内の電子マニュアル（PDF形式）もあわせてご覧ください(p.2)。

カメラと付属品の確認

お使いになる前に、以下のものが入っていることを確認してください。
万一、不足のものがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

カメラ

バッテリーパックNB-6L（端子カバーつき）

バッテリーチャージャー CB-2LY

インターフェースケーブル IFC-400PCU

AVケーブル AVC-DC400

リストストラップ WS-DC7

カメラユーザーガイド（本書）

DIGITAL CAMERA Solution Disk

保証書

サポートガイド

電子マニュアルについて

ソフトウェアのインストール後、デスクトップのショートカットアイコンをクリックすると、以下の電子マニュアル（PDF形式）を参照できます。インストールができないときは、CD-ROM内の「Readme」フォルダからご覧ください。

- **はじめよう！おうちプリント**
  カメラとプリンターをつないで印刷するときにお読みください。
- **ソフトウェアガイド**
  付属のソフトウェアを使うときにお読みください。

- メモリーカードは付属されていません。
- 電子マニュアル（PDF形式）をご覧になるには、Adobe Readerが必要です。

はじめにお読みください

試し撮りと撮影内容の補償について

必ず事前に試し撮りをし、撮影後は画像を再生して画像が正常に記録されていることを確認してください。万一カメラやメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの取り込みができなかったときの記録内容の補償については、ご容赦ください。

著作権について

このカメラで記録した画像は、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限していることがありますのでご注意ください。

保証について

このカメラの保証書は国内に限り有効です。万一、海外旅行先で故障や不具合が生じたときは、帰国したあと、別紙の相談窓口へご相談ください。

液晶モニターについて

- 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており 99.99%以上の有効画素がありますが、画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録される画像には影響ありません。
- 液晶モニターに保護シートが貼られているときは、はがしてからご使用ください。

長い時間使う際のご注意

このカメラは、長い時間お使いになっていると、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありません。

やりたいこと目次

撮る

見　る

動画を撮る／見る

印刷する

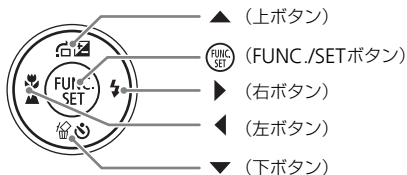
残　す

その他

目次

このガイドは、1～3章までの説明で、このカメラの基本的な操作やよく使う機能がわかるようになっています。4章以降は高度な機能を説明していますが、読み進めることでステップアップできるようになっています。

このガイドの記載について

- カメラのボタンやスイッチは、ボタンやスイッチに表記されている絵文字を使って示しています。
- 画面に表示される絵文字や文言は、［ ］つきで示しています。
- 十字キー、FUNC./SETボタンは、それぞれ以下の絵文字で示しています。

- ：注意事項を示しています。
- ：困ったときに手助けとなる内容を示しています。
- ：上手に使うためのヒントを示しています。
- ：補足説明を示しています。
- （p.xx）：参照ページを示しています。xxはページ数を示しています。
- すべての機能が初期状態になっていることを前提に説明しています。
- このカメラで使えるメモリーカードのことを「カード」と表記しています。

安全上のご注意

- ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、製品を正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。
- 別売アクセサリーをお持ちのときは、付属の使用説明書もあわせてご確認ください。

⚠ 警告	死亡または重傷を負う可能性がある内容です。
⚠ 注意	傷害を負う可能性がある内容です。
注意	物的損害を負う可能性がある内容です。

⚠ 警告

カメラ

- **ストロボを人の目に近づけて発光しない。**

視力障害の原因となります。特に、乳幼児を撮影するときは1m 以上離れてください。

- **お子様や幼児の手の届くところで保管しない。**

ストラップ：誤って首に巻き付けると、窒息することがあります。
カード：誤って飲み込むと危険です。万一飲み込んだときは、ただちに医師にご相談ください。

- **分解、改造しない。**
- **落下などで破損したときは、内部には触れない。**
- **煙が出ている、異臭がするなどの異常が発生したときは、使わない。**
- **アルコール、ベンジン、シンナーなどの有機溶剤で手入れしない。**
- **内部に液体や異物などを入れない。**

感電、火災の原因となります。
万一、液体や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、その後必ずバッテリーを取り出してください。

- **指定外の電源は使わない。**

感電、火災の原因となります。

バッテリー、バッテリーチャージャー

- **指定外のバッテリーは使わない。**
- **バッテリーは火に近づけたり、火の中に投げ込まない。**
- **水や海水などの液体で濡らさない。**
- **分解、改造したり、加熱しない。**

- **落とすなどして強い衝撃を与えない。**

バッテリーが破裂や液漏れし、けがや周囲を汚す原因となったり、火災、感電の原因となることがあります。万一、電解液が漏れ、衣服、皮膚、目、口についたときは、ただちに洗い流してください。
また、バッテリーチャージャーが液体で濡れたときは、コンセントから抜いて、お買い上げになった販売店または修理受付窓口にご相談ください。

- **バッテリーを充電するときは、指定されたバッテリーチャージャー以外は使わない。**
- **電源プラグを定期的に抜き、その周辺およびコンセントにたまったホコリや汚れを乾いた布で拭き取る。**
- **濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。**
- **コンセントや配線器具の定格を超える使いかたをしない。また、電源プラグが傷んでいたり、差し込みが不十分なまま使わない。**
- **電源プラグや充電端子に金属製のピンやゴミを付着させない。**

感電、火災の原因となります。

その他

- **付属のCD-ROMは、CD-ROM対応ドライブ以外では絶対に再生しない。**

音楽用CDプレーヤーで再生してヘッドフォンなどを使用したときは、大音量により聴力障害の原因となります。また、音楽用CDプレーヤーで使用したときは、スピーカーなどの破損の原因となります。

⚠ 注意

- **ストラップで下げているときは、他のものに引っ掛けたり、強い衝撃や振動を与えない。**
- **レンズを強く押したり、ぶつけたりしない。**

けがやカメラの故障の原因となることがあります。

- **以下の場所で使用・保管しない。**
  - **直射日光のあたるところ**
  - **40度を超える高温になるところ**
  - **湿気やホコリの多いところ**

バッテリーの液漏れ、発熱、破裂により、感電、やけど、けが、火災の原因となることがあります。また、カメラが熱により変形することがあります。

- **ストロボを指や布などで覆ったまま、発光させない。**

やけどや故障の原因となることがあります。

注意

- **カメラを強い光源（晴天時の太陽など）に向けない。**

撮像素子が損傷することがあります。

- **砂浜や風の強い場所で使うときは、カメラの内部にホコリや砂が入らないようにする。**

故障の原因となることがあります。

- **ストロボに汚れやホコリなどの異物が付いたときは、綿棒などで取り除く。**

そのまま発光させると、発光熱により、付着物の発煙や故障の原因になることがあります。

- **バッテリーチャージャーは、使用しないときや充電が終わったときは、コンセントから外す。**
- **布などをかけたまま充電しない。**

長時間接続しておくと、発熱、変形して火災の原因となります。

- **使用しないときは、カメラからバッテリーを取り出して保管する。**

カメラにバッテリーを入れたままにしておくと、液漏れにより故障の原因となることがあります。

- **バッテリーを廃却するときは、接点にテープを貼るなどして絶縁する。**

他の金属と接触すると、発火、破裂の原因となります。

- **ペットの近くにバッテリーを置かない。**

バッテリーに噛みついたとき、バッテリーの液漏れ、発熱、破裂により、故障や火災の原因となることがあります。

- **ズボンのポケットにカメラを入れたまま座らない。**

液晶モニターの破損の原因となります。

- **かばんにカメラを入れるときは、硬いものが液晶モニターにあたらないようにする。**
- **ストラップにアクセサリーをつけない。**

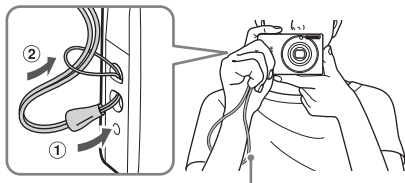
硬いものが液晶モニターにあたると破損の原因になります。

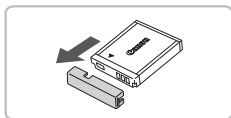
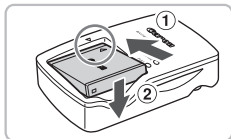
1

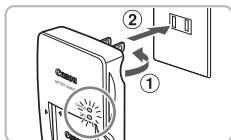
さっそくカメラを使ってみよう

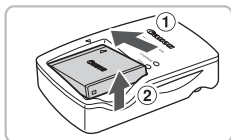
この章では、撮影前の準備、AUTO（オート）モードでの撮影、画像を見る、消すの一連の操作について説明しています。また章の後半では、動画を撮る、見る方法や、パソコンに画像を取り込む方法について説明しています。

ストラップを取り付ける／カメラを構える

- 付属のストラップをカメラに取り付け、撮影時にはカメラを落とさないように、手首に通してお使いください。
- 撮影するときは、脇をしめてカメラが動かないようにしっかりと構え、ストロボに指がかからないようにしてください。

充電する

カメラに付属の充電器を使って、バッテリーを充電します。お買い上げ時はバッテリーが充電されていませんので、必ず充電してからお使いください。

1 カバーを外す

2 バッテリーを取り付ける

- バッテリーと充電器の▲をあわせて、① の方向へ押しながら、② の方向へ取り付けます。

3 充電する

- プラグを① の方向へおこして、② コンセントに差し込みます。
- ▶ 充電がはじまり、ランプが赤色に点灯します。
- ▶ 充電は、約1時間55分で完了し、ランプが緑色に点灯します。

4 バッテリーを取り外す

- 充電器をコンセントから抜き、① の方向へ押しながら、② の方向へ取り外します。

バッテリーを保護し、性能の劣化を防ぐため、24時間以上連続して充電しないでください。

撮影できる枚数の目安

撮影枚数（枚）	240
再生時間（時間）	7

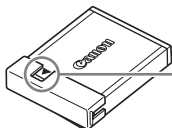
- 撮影枚数は、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。
- 撮影枚数は、撮影条件により少なくなることがあります。

バッテリーの残量表示

バッテリーの状態は、画面にマークやメッセージで表示されます。

画面表示	内容
	十分です。
	少し減っていますが、まだ使えます。
（赤く点滅）	残量が少なくなってきました。充電してください。
[バッテリーを交換してください]	残量がありません。すぐに充電してください。

バッテリーと充電器の上手な使いかた

- **充電は使う前日か当日にする**
  充電したバッテリーは、使わなくても自然放電によって少しずつ残量が減っていきます。

充電したバッテリーは、▲が見えるように
カバーを取り付けます。

- **長期間の保管方法**
  バッテリーを使い切ってカメラから取り出し、カバーを付けて保管してください。バッテリーを使い切らずに長期間（1年くらい）保管すると、バッテリー寿命を縮めたり、性能が劣化することがあります。
- **充電器は海外でも使える**
  充電器は、AC100～240V 50/60Hzの地域で使えます。プラグの形状があわないときは、市販の電源プラグ変換アダプターを使ってください。海外旅行用の電子変圧器は故障の原因になりますので絶対に使わないでください。
- **バッテリーがふくらむ**
  バッテリー特性のため安全上は問題ありません。ただし、バッテリーがふくらむことでカメラに入らなくなったときは、別紙の相談窓口へご相談ください。
- **充電したのにすぐ使えなくなる**
  バッテリーの寿命です。新しいバッテリーをお買い求めください。

使えるカード（市販品）を確認する

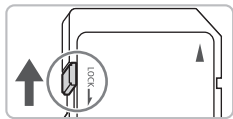
- SD（エスディー）メモリーカード（2GB以下）＊1
- SDHC（エスディーエイチシー）メモリーカード（2GBを超える～32GB以下）＊1
- SDXC（エスディーエックスシー）メモリーカード（32GBを超える）＊1
- MMC（エムエムシー）カード＊2
- MMCplus（エムエムシープラス）カード
- HC MMCplus（エイチシーエムエムシープラス）カード

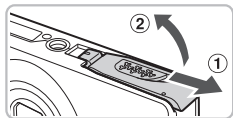
＊1 SD 規格に準拠したカードです。カードによっては、正しく動作しないことがあります。

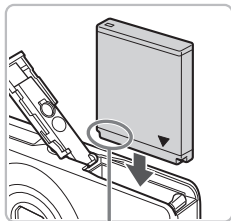
＊2「MMC」は、「MultiMediaCard」の略です。

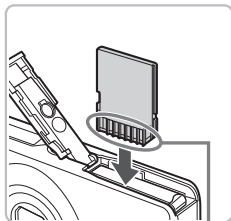
お使いのOSのバージョンによっては、SDXCメモリーカードをカードリーダー（市販品）に差しても認識されないことがあります。必ずOSの対応状況を事前にご確認ください。

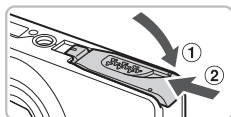
バッテリーとカードを入れる

付属のバッテリーとカード（市販品）をカメラに入れます。

1 カードのスイッチを確認する

- スイッチがあるカードでは、スイッチが下（「LOCK」側）になっていると撮影できません。「カチッ」と音がするまでスイッチを上に動かします。

2 ふたを開ける

- ① の方向にふたを動かして、② の方向へふたを開けます。

3 バッテリーを入れる

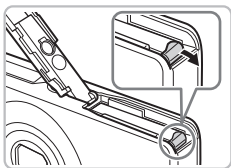
- バッテリーを図の向きにして、「カチッ」と音がしてロックされるまで差し込みます。
- 間違った向きでバッテリーを入れるとロックされません。必ずバッテリーがロックされる正しい向きで入れてください。

4 カードを入れる

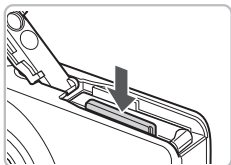
- カードを図の向きにして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。
- カードは、必ず正しい向きで入れてください。間違って入れるとカメラの故障の原因となります。

5 ふたを閉める

- ふたを①の方向にたおして押さえたまま、②の方向へ「カチッ」と音がするまで動かして閉めます。

［カードがロックされています］が表示された

SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードには、ライトプロテクト（書き込み禁止）というスイッチがついています。このスイッチが「LOCK」側になっていると、画面に［カードがロックされています］と表示され、撮影することや撮った画像を消すことができません。

バッテリーとカードを取り出す

バッテリーを取り出す

- ふたを開け、バッテリーロックを矢印の方向に動かします。
- ▶ バッテリーが出てきます。

カードを取り出す

- 「カチッ」と音がするまでカードを押し込み、ゆっくり指を放します。
- ▶ カードが出てきます。

1枚のカードに撮影できる枚数の目安

カード	4GB	16GB
撮影枚数（枚）	1231	5042

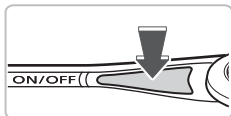
- カメラが初期状態での枚数です。
- 撮影枚数は、カメラの各種設定、被写体、カードにより変わります。

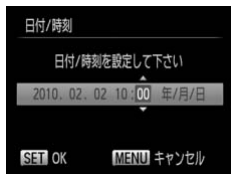
撮影できる枚数を確認するには？

カメラを撮影モード（p.24）にすると画面で確認できます。

撮影できる枚数

日付／時刻を設定する

はじめて電源を入れると、日付／時刻の設定画面が表示されます。撮影した画像には、ここで設定した日付／時刻をもとにした日時の情報が記録されます。必ず設定してください。

1 電源を入れる

- 電源ボタンを押します。
- ▶［日付/時刻］画面が表示されます。

2 日付／時刻を設定する

- ◀か▶を押して項目を選びます。
- ▲か▼を押して、設定します。

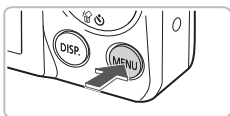
3 設定を終える

- (FUNC/SET)を押します。
- ▶日付／時刻が設定され、［日付/時刻］画面が消えます。
- 電源ボタンを押すと電源が切れます。

? 電源を入れるたびに［日付/時刻］画面が表示されるときは？

日付／時刻を設定しないと、電源を入れるたびに［日付/時刻］の設定画面が表示されます。正しく設定してください。

日付／時刻を変える

日付／時刻を、現在の設定から変えられます。

1 メニューを表示する

- MENUボタンを押します。

2 [ƒ†] タブの [日付/時刻] を選ぶ

- ◀か▶を押して [ƒ†] タブを選びます。
- ▲か▼を押して [日付/時刻] を選び、(FUNC/SET) を押します。

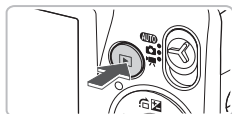
3 日付／時刻を変える

- p.19の手順2〜3の操作で設定します。
- MENUボタンを押すと、メニュー画面が消えます。

日付／時刻用電池について

- カメラには日付／時刻用電池（バックアップ電池）が内蔵されています。バッテリーを取り出してから約3週間は、設定した日付／時刻が保持されます。
- 日付／時刻用電池は、充電したバッテリーをカメラに入れるか、ACアダプターキット（別売）（p.37）を使うと、カメラの電源を入れなくても約4時間で充電されます。
- 日付／時刻用電池がなくなると、カメラの電源を入れたときに [日付 / 時刻] 画面が表示されます。p.19の手順で正しく設定してください。

表示言語を選ぶ

画面に表示される言語を変えられます。お買い上げ時は日本語に設定されています。

1 再生モードにする

- ▶ボタンを押します。

2 設定画面を表示する

- (FUNC/SET)を押したまま、MENUボタンを押します。

3 言語を設定する

- ◀か▶を押して言語を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 表示言語が設定され、設定画面が消えます。

言語設定は、MENUボタンを押すと表示されるメニュー画面で、［?］タブの［言語］を選んで設定することもできます。

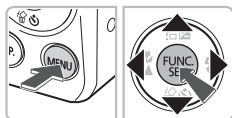
カードを初期化する

新しく買ったカードや他のカメラやパソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）することをおすすめします。
初期化するとカード内のすべてのデータは消され、もとに戻すことはできません。十分に確認してから初期化してください。

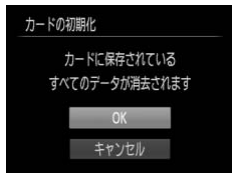
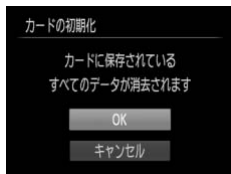
1 メニューを表示する

- MENUボタンを押します。

2 ［カードの初期化］を選ぶ

- ◀か▶を押して［⫯⫯］タブを選びます。
- ▲か▼を押して［カードの初期化］を選び、(FUNC/SET)を押します。

3 初期化する

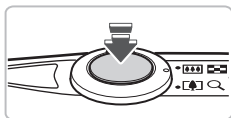
- ◀か▶を押して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 確認画面が表示されます。

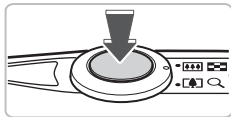
- ▲か▼を押して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ カードが初期化されます。
- ▶ 初期化が終わると［カードの初期化が完了しました］が表示されます。

● (FUNC/SET)を押します。

カード内のデータは初期化や消去をしても、ファイル管理情報が変わるだけで、完全には消えません。譲渡や廃棄するときは注意してください。廃棄するときはカードを破壊するなどして、個人情報の流出を防いでください。

初期化の画面で表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。

シャッターボタンの押しかた

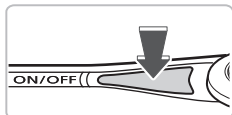
ピントが合った画像を撮るために、必ずシャッターボタンを浅く押す「半押し」をしてピントを合わせてから、「全押し」して撮影します。

1 半押し（浅く押してピントを合わせる）

● 電子音が「ピピッ」と2回鳴り、ピントが合った位置にAFフレームが表示されるまで、浅く押します。

2 全押し（そのまま深く押して撮影する）

▶ シャッター音が鳴り、撮影されます。

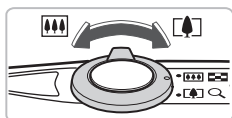
シャッターボタンを半押ししないで撮影すると、ピントが合わない画像になることがあります。

撮る（こだわりオート）

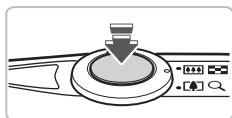
カメラが被写体や撮影状況を判別するため、シーンに最適な設定でカメラまかせの全自動撮影ができます。人を撮影するときは、顔を自動的に検出して顔にピントを合わせ、顔の明るさや色あいも最適になるよう設定されます。

1 電源を入れる

- 電源ボタンを押します。
- ▶ 起動画面が表示されます。

2 AUTO モードにする

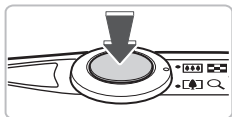
- モードスイッチをAUTOにします。
- カメラを被写体に向けると、シーンを判別するため動作音（カチカチ）がします。
- ▶ 画面の右上にカメラが判別したシーンのアイコンが表示されます。
- ▶ 人の顔が検出されたときはフレームが表示され、顔にピントを合わせます。

3 撮りたいものの大きさを決める

- ズームレバーを[♠]側へ押すと撮りたいものが大きくなり、♠♠♠側へ押すと小さくなります（ズームバーが表示されます）。

ズームバー

4 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。

AFフレーム

▶ ピントが合うと電子音が「ピピッ」と2回鳴り、ピントが合った位置にAFフレームが表示されます。
複数のフレームが表示されたときは、表示されたすべてのフレームにピントが合っています。

5 撮影する

● シャッターボタンを全押しして、撮影します。
▶ シャッター音が鳴り、撮影されます（暗いところでは自動的にストロボが光ります）。
▶ 撮影した画像は、約2秒間表示されます。
● 画像が表示されている状態でも、シャッターボタンを押すと、次の撮影ができます。

シーンのアイコン

カメラが判別したシーンを示すアイコンが表示され、ピント合わせや被写体の明るさ、色あいが最適になるよう自動設定されます。

背景 / 被写体	明るい	明るい（逆光）	青空を含む	青空を含む（逆光）	夕景	暗い	暗い（三脚使用時）
人					–		＊
人以外の被写体／風景							＊
近くの被写体					–		–
アイコンの背景色	灰色		水色		オレンジ色	紺色	

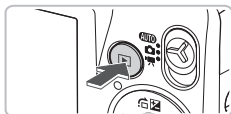
＊撮影シーンが暗いときに、三脚などでカメラを固定すると表示されます。

シーンによっては、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。特に背景がオレンジ色や青色の壁などのときは、［ ］や「青空を含む」アイコン類が表示されて、適切な色調で撮影できないことがあります。そのときは、**P**モード（p.62）で撮影することをおすすめします。

こんなときは？

- **カメラを被写体に向けると、白や灰色のフレームが表示される**
  カメラが人の顔を検出すると、主被写体と判断した顔には白のフレーム、その他の顔には灰色のフレームが表示され、一定の範囲で追尾します（p.74）。
- **ランプがオレンジ色に点滅し、［ ］が点滅表示した**
  手ブレしやすいので、カメラが動かないように、三脚などでカメラを固定してください。
- **音が鳴らない**
  DISP.ボタンを押したまま電源を入れたため、警告を知らせる音以外は鳴らなくなりました。音が鳴るように設定するには、MENUボタンを押して、［ ］タブの［消音］を選び、◀か▶を押して［しない］を選びます。
- **ストロボが光ったのに暗い画像になった**
  被写体までの距離が遠すぎます。ズームレバーを 側に押してもっとも広角側にしたときはレンズ先端から約30cm～4.0m、［ ］側へ押してもっとも望遠側にしたときは約50cm～2.0mの範囲で撮影してください。
- **シャッターボタンを半押ししたときに、電子音が「ピッ」と1回鳴る**
  撮りたいものが近すぎる可能性があります。ズームレバーを 側に押してもっとも広角側にしたときで約3cm以上、［ ］側に押してもっとも望遠側にしたときは約50cm以上離れて撮影してください。
- **シャッターボタンを半押ししたときに、ランプ（前面）が点灯する**
  暗いところでの撮影では、目が赤く写るのを緩和したり、ピントを合わせるため、ランプが点灯することがあります。
- **撮影しようとしたら、［ ］が点滅表示されて撮影できない**
  ストロボ充電中です。充電が終わると撮影できます。

見る

撮影した画像を画面で見ることができます。

1 再生モードにする

- ▶ボタンを押します。
- ▶ 最後に撮影した画像が表示されます。

2 画像を選ぶ

- ◀を押すと最後に撮影した画像から、新しい順に表示されます。
- ▶を押すと古い画像から順に表示されます。
- ◀か▶を押したままにすると、画像が速く切り換わります。ただし、表示画像は粗くなります。
- 約1分経過すると、レンズが収納されます。
- レンズが収納されているときは、もう一度▶ボタンを押すと、電源が切れます。

撮影モードに切り換える

再生モードの状態でシャッターボタンを半押しすると撮影モードになります。

消す

不要な画像を1枚ずつ選んで消せます。消した画像はもとに戻すことはできません。十分に確認してから消してください。

1 再生モードにする

● ▶ボタンを押します。

▶ 最後に撮影した画像が表示されます。

2 消したい画像を選ぶ

● ◀か▶を押して、画像を選びます。

3 消す

● ▼を押します。

▶［消去？］が表示されます。

● ◀か▶を押して［消去］を選び、FUNC.SETを押します。

▶ 表示していた画像が消えます。

● 中止するときは、◀か▶を押して［キャンセル］を選び、FUNC.SETを押します。

動画を撮る

シャッターボタンを押すだけで、カメラまかせの動画撮影ができます。

撮影できる時間

1 モードにする

● モードスイッチをにします。

2 撮りたいものの大きさを決める

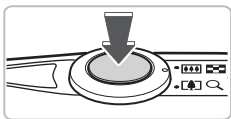
● ズームレバーを側へ押すと撮りたいものが大きくなり、側へ押すと小さくなります。

3 ピントを合わせる

● シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。

▶ ピントが合うと電子音が「ピピッ」と2回鳴ります。

4 撮影する

● シャッターボタンを全押しします。

撮影時間

▶ 撮影がはじまり、［●録画］と撮影時間が表示されます。

● 撮影がはじまったら、シャッターボタンから指を放します。

● 撮影中に構図を変えると、ピント位置はそのままで、明るさや色あいは自動的に調整されます。

マイク

● 撮影中はマイクをふさがないでください。

● シャッターボタン以外を操作すると、操作音も録音されます。

5 撮影を終える

● シャッターボタンをもう一度全押しします。

▶ 電子音が「ピッ」と1回鳴り、撮影が終わります。

▶ 撮影した動画がカードに記録されます。

▶ カード容量がいっぱいになると、自動的に撮影が終わります。

撮影中に撮りたいものを大きくする

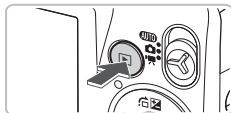
撮影中にズームレバーを[♠]側へ押すと、撮りたいものが拡大できます。ただし、画像が粗くなり、操作音も録音されます。

撮影できる時間の目安

カード	4GB	16GB
撮影時間	32分26秒	2時間12分50秒

- カメラが初期状態での撮影時間です。
- 一度の撮影で動画の容量が4GBになるか、撮影時間が約1時間になると自動的に撮影が終わります。
- カードによっては、連続撮影時間に満たなくても、撮影が終わることがあります。SDスピードクラス4以上のカードを使用することをおすすめします。

動画を見る

撮影した動画を画面で見ることができます。

1 再生モードにする

- ▶ボタンを押します。
- ▶ 最後に撮影した画像が表示されます。
- ▶ 動画には［SET 🎥］が表示されます。

2 再生する動画を選ぶ

- ◀か▶を押して再生する動画を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 動画操作パネルが表示されます。

3 再生する

- ◀か▶を押して［▶］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 動画が再生されます。
- もう一度(FUNC/SET)を押すと一時停止／再開できます。
- 音量は▲か▼を押して調節します。
- ▶ 再生が終わると［SET 🎥］が表示されます。

パソコンに取り込んで見る

付属のソフトウェアを使って、カメラで撮影した画像をパソコンに取り込んで見ることができます。すでにZoomBrowser EX / ImageBrowserをお使いのときは、付属のCDで最新のソフトウェアを上書きインストールしてください。

パソコンに必要なシステム構成

Windows

OS	Windows 7 Windows Vista（Service Pack 1、Service Pack 2を含む） Windows XP Service Pack 2、Service Pack 3
機種	上記OSがプリインストールされていて、USB接続部が標準装備されていること
CPU	Pentium 1.3GHz以上
RAM	Windows 7（64bit）：2GB以上 Windows 7（32bit）、Windows Vista：1GB以上 Windows XP：512MB以上
インターフェース	USB
ハードディスク空き容量	ZoomBrowser EX：200MB以上* PhotoStitch：40MB以上
ディスプレイ	1,024×768ドット以上

* Windows XPでは、Microsoft .NET Framework 3.0（最大500MB）以上のインストールが必要です。お使いの環境によっては、インストールに時間がかかることがあります。

Macintosh

OS	Mac OS X v10.4～v10.6
機種	上記OSがプリインストールされていて、USB接続部が標準装備されていること
CPU	PowerPC G4 / G5またはIntelプロセッサー
RAM	Mac OS X v10.4～v10.5：512MB以上 Mac OS X v10.6：1GB以上
インターフェース	USB
ハードディスク空き容量	ImageBrowser：300MB以上 PhotoStitch：50MB以上
ディスプレイ	1,024×768ドット以上

準備をする

ここでは、Windows VistaとMac OS X v10.5を使って説明をしています。

1 インストールする

Windows

① CDをパソコンのドライブに入れる
- 付属のCD（DIGITAL CAMERA Solution Disk）（p.2）をパソコンのドライブに入れます。

② インストールをはじめる
- ［おまかせインストール］をクリックし、表示される画面にしたがって操作を進めます。
- ユーザーアカウント制御の画面が表示されたら、メッセージにしたがって進めます。

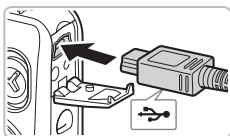
③ インストールが終わったら、［再起動］または［完了］をクリックする

④ CDを取り出す
- デスクトップ画面が表示されたらCDを取り出します。

Macintosh

① CD をパソコンのドライブに入れる
- 付属のCD（DIGITAL CAMERA Solution Disk）（p.2）をパソコンのドライブに入れます。

② インストールをはじめる
- CD内の［ ］をダブルクリックします。

- ［インストール］をクリックして、表示される画面にしたがって操作を進めます。

2 カメラとパソコンをつなぐ

- カメラの電源を切ります。
- ふたを開き、ケーブルの小さい方のプラグを図の向きにして、カメラの端子にしっかりと差し込みます。
- ケーブルの大きい方のプラグをパソコンに差し込みます。パソコンとのつなぎかたについては、パソコンの使用説明書を参照してください。

3 電源を入れる

- ▶ボタンを押して電源を入れます。

4 カメラウィンドウを表示する

Windows

- ［画像をキヤノンカメラからダウンロードします］をクリックします。
- ▶ CameraWindowが表示されます。
- 画面が表示されないときは、［スタート］メニュー ▶［すべてのプログラム］▶［Canon Utilities］▶［CameraWindow］▶［CameraWindow］を選びます。

Macintosh

- ▶ カメラとパソコンが通信できる状態になると、CameraWindowが表示されます。
- 画面が表示されないときは、Dock（デスクトップ下部に表示されるバー）の［CameraWindow］アイコンをクリックします。

Windows7をお使いのときは、次の手順でCameraWindowを表示します。

- タスクバーの［ ］をクリックします。
- 表示された画面で、［ ］のプログラムを変更するためのリンクをクリックします。
- ［画像をキヤノンカメラからダウンロードします］を選び、［OK］をクリックします。
- ［ ］をダブルクリックします。

画像を取り込む／見る

- ［カメラ内の画像の取り込み］をクリックしたあと、［未転送画像を取り込む］をクリックします。

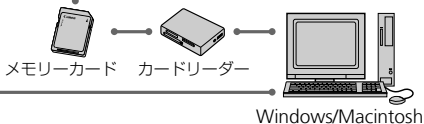
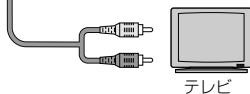
▶ パソコンに取り込まれていないすべての画像が取り込まれます。画像は、撮影日ごとのフォルダに分けられて、「ピクチャ」フォルダに保存されます。

- ［画像の取り込みが完了しました。］が表示されたら［OK］をクリックしたあと、［×］をクリックしてCameraWindowを閉じます。
- カメラの電源を切り、ケーブルを抜きます。
- パソコンで画像を見る操作は、「ソフトウェアガイド」(p.2)を参照してください。

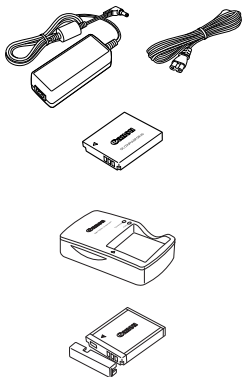
ソフトウェアをインストールしなくても、カメラとパソコンをつなぐだけで画像を取り込むことができますが、次のような制限事項があります。

- カメラとパソコンをつないでから操作できるようになるまで、数分かかることがあります。
- 動画は正しく取り込めません。
- 縦位置で撮影した画像が横位置になって取り込まれることがあります。
- 保護した画像が、パソコン側で解除されることがあります。
- OSのバージョンや使用するソフトウェア、ファイルサイズによっては、画像や画像に付属する情報が正しく取り込めないことがあります。

接続マップ

付属品
リストストラップ
WS-DC7
DIGITAL CAMERA
Solution Disk
バッテリーパック NB-6L
（端子カバーつき）＊
バッテリーチャージャー
CB-2LY＊
AVケーブル
AVC-DC400＊
インターフェース
ケーブルIFC-400PCU＊
＊別売りも用意されています。
メモリーカード
カードリーダー
Windows/Macintosh
キヤノン製PictBridge対応プリンター
SELPHYシリーズ
PIXUSシリーズ
プリンターとカメラをつなぐケーブルについては、お使いになるプリンターの使用説明書を参照してください。
テレビ

別売アクセサリー

必要に応じてお買い求めの上、ご利用ください。なお、アクセサリーは、諸事情により予告なく販売を終了することがあります。また、地域によってはお取り扱いがないことがあります。

電源

ACアダプターキット ACK-DC40

- 家庭用電源でカメラを使えます。カメラを長時間連続して使うときや、プリンターやパソコンとつなぐときには、このACアダプターキットをお使いになることをおすすめします（カメラ内のバッテリーは充電できません）。

バッテリーチャージャー CB-2LY

- バッテリーパックNB-6L用の充電器です。

バッテリーパック NB-6L

- 充電式のリチウムイオン電池です。

注意

指定外の電池／バッテリーを使うと、爆発などの危険があります。使用済みの電池／バッテリーは、各自治体のルールにしたがって処分してください。

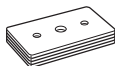
海外での使用について

バッテリーチャージャーやACアダプターキットは、AC100～240V 50/60Hzの地域で使えます。プラグの形状があわないときは、市販の電源プラグ変換アダプターを使ってください。なお、海外旅行用の電子変圧器は故障の原因になりますので絶対に使わないでください。

ストロボ

ハイパワーフラッシュ HF-DC1

- 被写体が遠すぎて内蔵ストロボの光が届かないときに使用します。

その他

ウォータープルーフケース WP-DC36

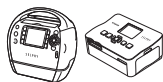
- カメラに取り付けると、雨天時や海辺、スキー場での撮影のほか、水深40m以内での水中撮影を楽しめます。

ウォータープルーフケースウェイト WW-DC1

- ウォータープルーフケースを使って水中で撮影するとき、ケースが浮かばないようにするためのおもりです。

ソフトケース IXC-390シリーズ

- カメラをキズやホコリから守ります。

プリンター

SELPHY シリーズ

PIXUS シリーズ

キヤノン製PictBridge 対応プリンター

- キヤノン製のPictBridge 対応プリンターをつなぐと、パソコンを使わずに、撮影した画像を印刷できます。
- 製品の詳細については、ホームページやカタログでご確認いただくか、別紙の相談窓口へお問いあわせください。

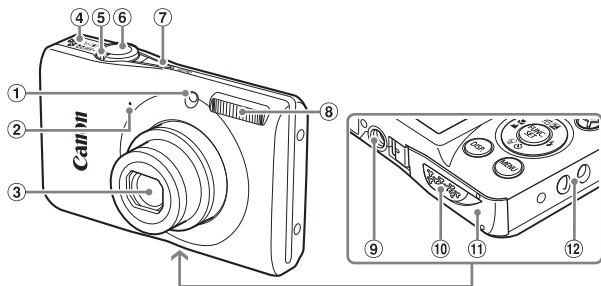
アクセサリーはキヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組みあわせてお使いになった場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。
なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

2

もっとカメラを知ってみよう

この章ではカメラの各部のなまえや画面の表示内容のほか、各種の基本的な操作方法について説明しています。

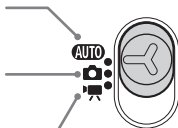
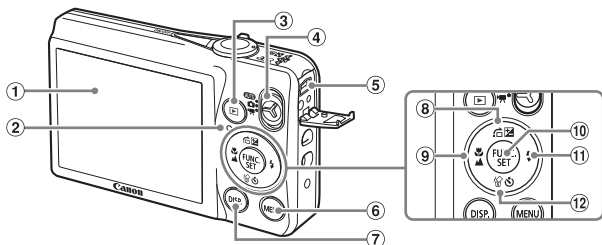
各部のなまえ

① ランプ（前面）（p.59、106）
② マイク（p.30）
③ レンズ
④ スピーカー
⑤ ズームレバー
撮影時：[♠]（望遠）／[♠♠♠]（広角）（p.24）
再生時：Q（拡大）／▦（インデックス）（p.86、90）
⑥ シャッターボタン（p.23）
⑦ 電源ボタン（p.19）
⑧ ストロボ（p.55、63）
⑨ 三脚ねじ穴
⑩ DCカプラー端子カバー（p.112）
⑪ カード／バッテリー収納部ふた（p.16）
⑫ ストラップ取り付け部（p.13）

モードスイッチ

撮影モードの切り換えは、モードスイッチで行います。

カメラまかせの全自動撮影ができます（p.24）。

撮影シーンに最適な撮影（p.52）や各種機能を設定してさまざまな撮影（p.51、61、73）ができます。

動画が撮影できます（p.29、81）。

① 画面（液晶モニター）（p.42）
② ランプ（背面）（p.41）
③ ▶（再生）ボタン（p.27、85、97）
④ モードスイッチ
⑤ A / V OUT（映像／音声出力）（p.91）· DIGITAL（デジタル）端子（p.34、98）
⑥ MENU（メニュー）ボタン（p.45）
⑦ DISP.（ディスプレイ）ボタン（p.42）
⑧ ±（露出補正）（p.62）／⌂（ジャンプ）（p.87）／▲ボタン
⑨ ✿（マクロ）（p.64）／▲（遠景）（p.63）／◀ボタン
⑩ FUNC./SET（ファンクション／セット）ボタン（p.44）
⑪ ϟ（ストロボ）（p.55、63）／▶ボタン
⑫ ⏲（セルフタイマー）（p.59、70、71）／🗑（1画像消去）（p.28）／▼ボタン

ランプの表示

カメラ背面のランプは、カメラの状態に連動して、点灯／点滅状態が変わります。

色	状態	操作状態
緑	点灯	撮影準備完了／ディスプレイオフ時（p.106）
	点滅	カードへの記録／読み出し、各種通信中
オレンジ	点灯	撮影準備完了（ストロボ発光時）
	点滅	手ブレ警告（p.55）

ランプが緑色に点滅しているときは、カードへの記録／読み出しや各種通信をしています。「電源を切る」、「カード／バッテリー収納部のふたを開ける」、「振動や衝撃を与える」ことは絶対にしないでください。画像、カメラ、カードが壊れることがあります。

画面の表示

表示の切り換え

画面表示は、DISP.ボタンを押して切り換えます。画面に表示される情報の詳細については、p.118を参照してください。

撮影時

情報表示あり　　情報表示なし

再生時

情報表示なし　　簡易情報表示　　詳細情報表示　　ピント位置確認表示（p.89）

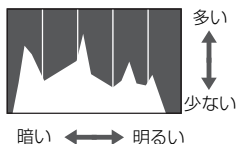
撮影直後の画面表示も、DISP.ボタンを押して切り換えられます。ただし、簡易情報表示にはなりません。最初に表示される画面は、MENUボタンを押して［📷］タブの［レビュー情報］で変えられます（p.108）。

撮影時の暗い場所での画面表示

暗い場所では、自動的に画面が明るくなって構図確認しやすくなります（ナイトビュー機能）。ただし、撮影される画像の明るさとは異なるほか、粗い感じ、またはややぎこちない表示になることがあります（記録される画像に影響はありません）。

再生時の高輝度（ハイライト）警告

「詳細情報表示」（p.42）にすると、画像上の白トビした箇所が点滅表示されます。

再生時のヒストグラム

- 「詳細情報表示」（p.42）のグラフは、画像中の明るさの分布を示したヒストグラムというグラフです。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとの量を示しています。また、グラフが右に寄っているときは明るい画像、左に寄っているときは暗い画像となり、露出の傾向を確認できます。

FUNC.メニューの基本操作

撮影時によく使う機能は、FUNC.メニューで設定できます。メニュー項目や項目は撮影モード（p.120～121）によって変わります。

1 撮影モードを選ぶ

● モードスイッチを目的の撮影モードにあわせます。

2 FUNC.メニューを表示する

● (FUNC/SET)を押します。

項目

メニュー項目

3 メニュー項目を選ぶ

● ▲か▼を押してメニュー項目を選びます。

▶ 選んだメニュー項目の項目が、画面の下部に表示されます。

4 項目を選ぶ

● ◀か▶を押して項目を選びます。

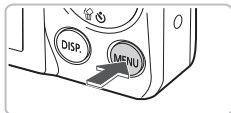
● DISP. が表示される項目では、DISP. ボタンを押して設定することができます。

5 設定を終える

● (FUNC/SET)を押します。

▶ 撮影画面に戻り、設定した項目が画面に表示されます。

メニューの基本操作

カメラの各種機能をメニューで設定できます。メニュー項目はタブで撮影［📷］や再生［▶］などの系統に分けられています。表示される項目は、モード（p.122～125）によって変わります。

1 メニューを表示する

● MENUボタンを押します。

2 タブを選ぶ

● ◀か▶を押すかズームレバー（p.40）を左右に動かして、タブを選びます。

3 項目を選ぶ

● ▲か▼を押して項目を選びます。

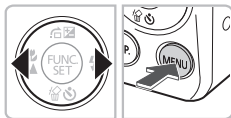
● 項目を選んだあと、(FUNC/SET)か▶を押すと画面が切り換わり、設定する項目もあります。

4 内容を選ぶ

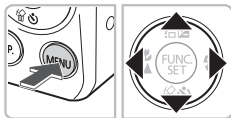
● ◀か▶を押して内容を選びます。

5 設定を終える

● MENUボタンを押します。

▶ 通常の画面に戻ります。

音の設定を変える

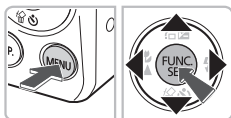
各ボタンを押したときや撮影のときに鳴る音を、鳴らないようにしたり、音量を変えたりできます。

音を鳴らさない

1 メニューを表示する

- MENUボタンを押します。

2 ［消音］を選ぶ

- ◀か▶を押して［ƳŤ］タブを選びます。
- ▲か▼を押して［消音］を選び、◀か▶ を押して［する］を選びます。
- もう一度MENUボタンを押すと、通常の画面に戻ります。

音量を変える

1 メニューを表示する

- MENUボタンを押します。

2 ［音量］を選ぶ

- ◀か▶を押して［ƳŤ］タブを選びます。
- ▲か▼を押して［音量］を選び、(FUNC/SET)を押します。

3 音量を変える

- ▲か▼を押して項目を選び、◀か▶を押して音量を変えます。
- MENUボタンを2回押すと、通常の画面に戻ります。

画面の明るさを変える

画面の明るさを、2種類の方法で変えられます。

メニューで変える

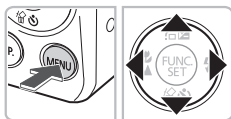
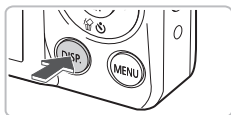
1 メニューを表示する

- MENUボタンを押します。

2 ［液晶の明るさ］を選ぶ

- ◀か▶を押して［YT］タブを選びます。
- ▲か▼を押して［液晶の明るさ］を選びます。

3 明るさを変える

- ◀か▶を押して明るさを変えます。
- MENUボタンを2回押すと、通常の画面に戻ります。

DISP.ボタンを押して変える

- DISP.ボタンを1秒以上押します。
- ▶ 画面が最高の明るさになります（［YT］タブの設定は無視されます）。
- もう一度DISP.ボタンを1秒以上押すと、もとの明るさに戻ります。

- 次回電源を入れたときは、［YT］タブで設定されている明るさになります。
- ［YT］タブの設定で最高の明るさになっているときは、DISP.ボタンを押しても明るさは変わりません。

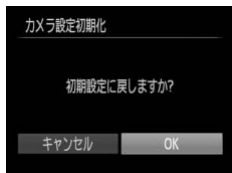
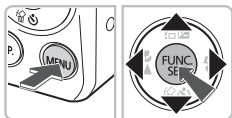
カメラの設定を初期状態に戻す

カメラの設定を誤って変えてしまったときは、初期状態に戻せます。

1 メニューを表示する

- MENUボタンを押します。

2 ［カメラ設定初期化］を選ぶ

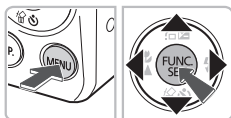
- ◀か▶を押して［ƒƒ］タブを選びます。
- ▲か▼を押して［カメラ設定初期化］を選び、(FUNC/SET)を押します。

3 初期状態に戻す

- ◀か▶を押して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ カメラが初期状態に戻ります。

初期状態に戻らない機能は？

- ［ƒƒ］タブの［日付/時刻］（p.20）、［言語］（p.21）、［ビデオ出力方式］（p.91）
- マニュアルホワイトバランスで記憶した白データ（p.68）

カードを物理フォーマット（初期化）する

カードへの画像記録／再生時の読み出し速度が遅くなったときなどに行います。物理フォーマットするとカード内のすべてのデータは消され、もとに戻すことはできません。十分に確認してから物理フォーマットしてください。

1 メニューを表示する

- MENUボタンを押します。

2 ［カードの初期化］を選ぶ

- ◀か▶を押して［ΨΤ］タブを選びます。
- ▲か▼を押して［カードの初期化］を選び、(FUNC/SET)を押します。

3 物理フォーマットする

- ▲か▼を押して［物理フォーマット］を選び、◀か▶を押して［✓］を表示します。
- ▲▼◀▶を押して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 確認画面が表示されます。
- ▲か▼を押して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 物理フォーマットが終わると［カードの初期化が完了しました］が表示されます。
- (FUNC/SET)を押します。

物理フォーマットについて

［カードが異常です］のメッセージが表示されたときや、カメラが正しく動かないときは、物理フォーマットすると使えるようになることがあります。その際、カード内の画像をパソコンなどにコピーしてから物理フォーマットしてください。

- 物理フォーマットはカード内の全記憶領域を初期化するため、通常の初期化よりも時間がかかります。
- 物理フォーマット中に［中止］を選ぶと、初期化を中止できます。中止してもデータはすべて消去されますが、カードは問題なく使えます。

節電機能（オートパワーオフ）

バッテリーの消耗を防ぐため、カメラを操作しない状態で一定の時間がたつと、自動的に画面を消したり、電源を切ったりする機能です。

撮影モードでの節電機能

約1分間カメラを操作しないと画面が消え、さらに約2分たつとレンズが収納されて電源が切れます。画面が消えた状態でもレンズが出ているときは、シャッターボタンを半押し（p.23）すると画面が表示され、撮影できます。

再生モードでの節電機能

約5分間カメラを操作しないと、電源が切れます。

- 節電機能を切ることができます（p.105）。
- 画面が消えるまでの時間を変えられます（p.106）。

3

いろいろなシーンや よく使う機能で撮ってみよう

この章では、シーン別での撮影方法やセルフタイマーなど、よく使う機能について説明しています。

- 撮影シーンにあったモードを選ぶと、撮影に必要な設定はカメラが自動的に行います。あとは、シャッターボタンを押すだけで撮影シーンに最適な画像が撮れます。
- 「ストロボを発光させない」（p.55）～「セルフタイマーを使う」（p.59）は、AUTOモードになっていることを前提に説明しています。AUTOモード以外で使うときは、それぞれの機能がどのモードで使えるか確認してください（p.120～123）。
- 「人が増えたら撮る（顔セルフタイマー）」（p.60）は、モードスイッチを撮影にして、顔セルフタイマーモードを選んだときの説明をしています。

いろいろなシーンで撮る

撮影シーンにあったモードを選ぶと、最適な撮影ができるようにカメラが自動的に設定を行います。

1 モードスイッチを📷にする（p.40）

2 撮影モードを選ぶ

- FUNC.SETを押したあと、▲か▼を押して[P]を選びます。

3 撮りたいシーンのモードを選ぶ

- ◀か▶を押して項目を選び、FUNC.SETを押します。
- 特別なシーン（p.53）で撮影するときは、［ ］（右端）を選んでDISP.ボタンを押したあと、◀か▶を押して項目を選び、FUNC.SETを押します。

4 撮影する

人を撮る（ポートレート）

- 人をやわらかい感じで撮影できます。

夜景と人を明るく撮る（ナイトスナップ）

- 夜景や、夜景の中の人をきれいに撮影できます。
- カメラをしっかりと構えれば、三脚がなくても手ブレを軽減して撮影できます。

子供やペットを撮る（キッズ&ペット）

- 子供やペットなど動きまわる被写体でも、シャッターチャンスを逃さずに撮影できます。

室内で撮る（パーティー／室内）

- 室内でのイベントやパーティーなどの1コマを、自然な色あいで撮影できます。

特別なシーン

暗い場所で撮る（ローライト）

- シーンに応じて AUTO モードより ISO 感度が高めに設定されてシャッタースピードが速くなるため、暗い場所でも手ブレや被写体ブレをおさえて撮影できます。
- 記録画素数は［ M ］と表示され、1600×1200画素に固定されます。

砂浜で人を撮る（ビーチ）

- 太陽の光の反射が強い砂浜で、人を明るく撮影できます。

水中で撮る（水中）

- ウォータープルーフケース WP-DC36（別売）を使って、水中にいる生き物や海中の美しい景色などを、自然な色あいで撮影できます。

木々や葉を色鮮やかに撮る（新緑／紅葉）

- 新緑や紅葉、桜など自然の木々や葉を、色鮮やかに撮影できます。

雪景色で人を撮る（スノー）

- 雪景色を背景に、人を明るく自然な色あいで撮影できます。

花火を撮る（打上げ花火）

- 打上げ花火を色鮮やかに撮影できます。

［ ］では手ブレを防ぐため、三脚などでカメラが動かないように固定してください。また、三脚などでカメラを固定するときは、［手ブレ補正］を［切］にして撮影することをおすすめします（p.109）。

［ ］［ ］［ ］［ ］では、撮影シーンによってはISO感度（p.67）が高くなるため、画像が粗くなることがあります。

その他のシーンモード

ここで説明した以外にも、次のようなシーンモードがあります。

- ［ ］顔セルフタイマー（p.60）
- ［ ］長秒時撮影（p.80）

ストロボを発光させない

ストロボを発光させないで撮影することができます。

1 ▶を押す

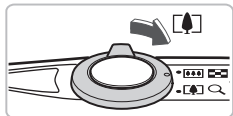
2 [⊘]を選ぶ

- ◀か▶を押して［⊘］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 設定されると、［⊘］が表示されます。
- 戻すときは上記の操作で［⚡A］を選びます。

? ランプがオレンジ色に点滅し、［📷］が点滅表示したときは？

手ブレしやすい暗い場所では、シャッターボタンを半押ししたときにランプ（背面）がオレンジ色に点滅し、画面に［📷］が点滅表示されます。カメラが動かないように三脚などで固定してください。

被写体をもっと拡大する（デジタルズーム）

光学ズームで被写体が大きく撮れないときは、デジタルズームを使って最大16倍相当まで拡大できます。ただし、設定した記録画素数（p.65）とデジタルズームの倍率によっては画像が粗くなることがあります。

1 ズームレバーを[♠]側へ押す

● ズームできるところまでレバーを押したままにします。

▶ 画像が粗くならない最大の倍率になるとズームが止まり、レバーを放すとズーム倍率が表示されます。

2 もう一度[♠]側へ押す

▶ デジタルズームで被写体がさらに拡大されます。

ズーム倍率が青色で表示される

青色で表示されるズーム倍率では、画像が粗くなります。

デジタルズームを切る

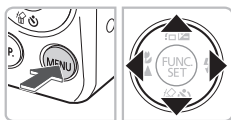
デジタルズームを使わないようにするには、MENUボタンを押して、[📷] タブの［デジタルズーム］を選び、［切］を選びます。

光学ズーム時の焦点距離は28～112mm、デジタルズーム時の焦点距離は112～448mm相当です（35mmフィルム換算）。

デジタルテレコンバーター

レンズの焦点距離を1.5倍／2.0倍相当にできます。ズーム操作（デジタルズーム含む）で同じ倍率に拡大したときよりも、シャッタースピードが速くなるため手ブレを軽減できます。
ただし、設定した記録画素数（p.65）とテレコンバーターの組みあわせによっては、画像が粗くなることがあります。

1 [デジタルズーム] を選ぶ

- MENUボタンを押します。
- ◀か▶を押して、[📷] タブを選びます。
- ▲か▼を押して [デジタルズーム] を選びます。

2 設定する

- ◀か▶を押して、倍率を選びます。
- MENUボタンを押して撮影画面に戻ります。
- ▶ 画面が拡大表示されて、倍率が表示されます。
- 戻すときは［デジタルズーム］で［入］を選びます。

ズーム倍率が青色で表示される

- [テレコン1.5x]、記録画素数が［ L ］［M1］のときは、倍率が青色で表示され、画像が粗くなります。
- [テレコン2.0x]、記録画素数が［ L ］［M1］［M2］のときは、倍率が青色で表示され、画像が粗くなります。

- 1.5倍／2.0倍時の焦点距離はそれぞれ42.0〜168mm／56.0〜224mm相当です（35mmフィルム換算）。
- デジタルズームとは一緒に使えません。

日時を入れる

画像の右下に撮影日時を記録できます。ただし、記録された撮影日時は画像から消せません。あらかじめ日付／時刻が正しく設定されていることを確認してください（p.19）。

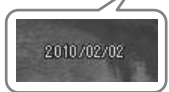
1 ［日付写し込み］を選ぶ

- MENUボタンを押します。
- ◀か▶を押して［📷］タブを選びます。
- ▲か▼を押して［日付写し込み］を選びます。

2 設定する

- ◀か▶を押して［日付のみ］か［日付+時刻］を選びます。
- MENUボタンを押して撮影画面に戻ります。
- ▶ 設定されると、［日付］が表示されます。

3 撮影する

- ▶ 撮影した画像の右下に、撮影日または撮影日時が記録されます。
- 戻すときは、手順2の操作で［切］を選びます。

撮影日を入れずに撮った画像でも、以下の方法で撮影日を入れて印刷できます。ただし、撮影日を入れて撮った画像に、撮影日を入れる指定をすると、重複して印刷されることがあります。

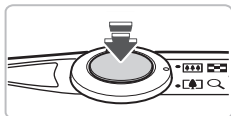
- 印刷指定（DPOF）機能を使って印刷する（p.100）
- 付属のソフトウェアを使って印刷する
「ソフトウェアガイド」（p.2）を参照してください。
- プリンターの機能を使って印刷する
「はじめよう！おうちプリント」（p.2）を参照してください。

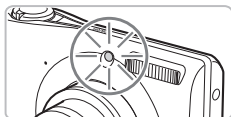
セルフタイマーを使う

集合写真などで撮影する人も一緒に写るときは、シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されるセルフタイマーを使って撮影します。

1 ▼を押す

2 [Ͼ10] を選ぶ

- ▲か▼を押して [Ͼ10] を選び、(FUNC.SET)を押します。
- ▶ 設定されると、[Ͼ10] が表示されます。

3 撮影する

- シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- ▶ タイマーがはじまるとランプ（前面）が点滅して、電子音が鳴ります。
- ▶ 撮影の2秒前になると、ランプ（前面）の点滅（ストロボ発光時は点灯）と電子音が速くなります。
- タイマーがはじまったあとに撮影を中止するときは、▼を押します。
- 戻すときは、手順 2 の操作で [ϾOFF] を選びます。

タイマーの時間と撮影する枚数を変えられます（p.71）。

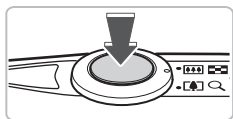
人が増えたら撮る（顔セルフタイマー）

集合写真などで撮影する人も一緒に写るときは、構図を決めてシャッターボタンを押したあと、シャッターボタンを押した人が構図に入って顔が検出（p.74）されると、約2秒後に撮影されます。

1 ［ ］を選ぶ

● p.52の手順1～3の操作で［ ］を選びます。

2 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

● ピントが合った顔には緑色、それ以外の顔には白の枠が表示されていることを確認します。

3 シャッターボタンを全押しする

▶ 撮影準備に入り［顔が増えたら撮影します］が表示されます。

▶ ランプ（前面）が点滅し、電子音が鳴ります。

4 一緒に写る人が構図に入りカメラに顔を向ける

▶ 新しい顔が検出されると、ランプの点滅（ストロボ発光時は点灯）と電子音が速くなり、約2秒後に撮影されます。

● タイマーがはじまったあとに撮影を中止するときは、▼を押します。

撮影枚数を変える

手順1の画面でDISP.ボタンを押したあと、◀か▶を押して枚数を選び、FUNC SETを押すと変えられます。

一緒に写る人が構図に入っても顔を検出できないときは、約15秒後に撮影されます。

4

目的の設定にして撮ってみよう

この章では、**P**モードのいろいろな機能を使って、一歩進んだ撮影方法について説明します。

- モードスイッチが📷で、**P**モードになっていることを前提に説明しています。
- **P**は、Program AE（プログラムエーイー）の略です。
- この章で説明する機能を**P**モード以外で使うときは、それぞれの機能がどのモードで使えるか確認してください（p.120～123）。

プログラムAEで撮る

いろいろな機能を自分好みに設定して撮影できます。
AEは、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。

1 モードスイッチを にする（p.40）

2 ［P］を選ぶ

- p.52の手順2の操作で［P］を選び、(FUNC./SET)を押します。

3 目的に応じて各機能を設定する（p.62～p.71）

4 撮影する

? シャッタースピードと絞り数値がオレンジ色で表示されたときは？

シャッターボタンを半押ししたときに適正露出が得られないと、シャッタースピードと絞り数値がオレンジ色で表示されます。以下の設定で、適正露出が得られることがあります。

- ストロボを発光させる（p.63）
- ISO感度を高くする（p.67）

明るさを変える（露出補正）

カメラが決めた標準的な露出を、1/3段ずつ、±2段の範囲で補正できます。

1 露出補正を選ぶ

- ▲を押します。

2 明るさを補正する

- 画面の表示を見ながら、◀か▶を押して明るさを補正し、(FUNC./SET)を押します。
- ▶ 設定した補正量が表示されます。

ストロボを発光させる

ストロボを常に発光させて撮影できます。ストロボ撮影できる範囲は、ズームレバーを[広角]側に押してもっとも広角側にしたときで約30cm～4.0m、[望遠]側に押してもっとも望遠側にしたときで約50cm～2.0mです。

［⚡］を選ぶ

- ▶を押したあと、◀か▶を押して［⚡］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- 設定されると、［⚡］が表示されます。

遠くの被写体を撮る（遠景撮影）

近くと遠くに被写体があり、ピントが合いにくいときは、フォーカスゾーン（被写体との距離の範囲）を変えると、遠い被写体（カメラから約3m以上）だけに、より確実なピント合わせができます。

［▲］を選ぶ

- ◀を押したあと、◀か▶を押して［▲］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- 設定されると、［▲］が表示されます。

近くの被写体を撮る（マクロ撮影）

近くの被写体を撮影したり、被写体に近づいて撮影できます。撮影できる範囲（フォーカスゾーン）は、ズームレバーを[W]側に押してもっとも広角側にしたときでレンズ先端から約3〜50cmです。

[マクロ] を選ぶ

- ◀を押したあと、◀か▶を押して［マクロ］を選び、(FUNC. SET)を押します。
- ▶ 設定されると、［マクロ］が表示されます。

ストロボが発光すると、画像の周辺部が暗くなることがあります。

ズームレバーを操作したときのバー表示について

- ズームレバーを操作すると、画面にズームバーが表示されます。マクロ撮影では、黄色のバー表示の範囲はピントが合いません。
- 黄色のバー表示の範囲では［マクロ］が灰色表示になり、通常の［AF］で撮影されます。

うまく撮影するために

- 手ブレを防ぐため、三脚などでカメラを固定し、[セルフタイマー2秒] で撮影することをおすすめします（p.70）。
- AFフレームの大きさを小さくすると、狙った被写体の特定の部分にピントを合わせやすくなります（p.75）

記録画素数（画像の大きさ）を変える

画像の記録画素数を6種類から選べます。

1 記録画素数を選ぶ

● FUNC.SETを押したあと、▲か▼を押して［ L］を選びます。

2 項目を選ぶ

● ◀か▶を押して項目を選び、FUNC.SETを押します。

▶ 設定した項目が表示されます。

［W］では、デジタルズーム（p.56）、デジタルテレコンバーター（p.57）は使えません。

圧縮率（画質）を変える

圧縮率を2種類から選べます。高画質から順に［ ］（ファイン）、［ ］（ノーマル）となります。

1 圧縮率を選ぶ

● FUNC.SETを押したあと、▲か▼を押して［ L］を選び、DISP.ボタンを押します。

2 項目を選ぶ

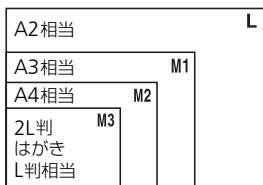
● ◀か▶を押して項目を選び、FUNC.SETを押します。

▶ 設定した項目が表示されます。

記録画素数と圧縮率を選ぶときの目安

記録画素数（ピクセル）	圧縮率	1画像の容量（約・KB）	撮影できる枚数	
			4GB	16GB
L（ラージ）12M/4000×3000	ファイン	3084	1231	5042
	ノーマル	1474	2514	10295
M1（ミドル1）8M/3264×2448	ファイン	2060	1828	7487
	ノーマル	980	3771	15443
M2（ミドル2）5M/2592×1944	ファイン	1395	2681	10981
	ノーマル	695	5247	21486
M3（ミドル3）2M/1600×1200	ファイン	558	6352	26010
	ノーマル	278	12069	49420
S（スモール）0.3M/640×480	ファイン	150	20116	82367
	ノーマル	84	30174	123550
W（ワイド）4000×2248	ファイン	2311	1630	6677
	ノーマル	1105	3352	13727

• 表内の数値は当社測定条件によるもので、被写体やカードの銘柄、カメラ設定などにより変わります。

用紙の大きさで選ぶときの目安

● ［ S ］は、電子メールで画像を送るときなどに適しています。

● ［W］はワイドサイズ用紙用です。

ISO感度を変える

1 ISO感度を選ぶ

● (FUNC/SET)を押したあと、▲か▼を押して［ISO AUTO］を選びます。

2 項目を選ぶ

● ◀か▶を押して項目を選び、(FUNC/SET)を押します。

▶ 設定した項目が表示されます。

ISO AUTO	撮影モードと撮影シーンに応じて自動設定	
ISO 80 ISO 100 ISO 200	低い	晴天の屋外
ISO 400 ISO 800	↕	曇り空、夕方
ISO 1600	高い	夜景、暗い室内

ISO感度を変えるときの目安

- ISO感度を低くすると粗さが目立たない画像になりますが、撮影シーンによっては手ブレがおきやすくなることがあります。
- ISO感度を高くすると、シャッタースピードが速くなるため、被写体ブレや手ブレが軽減されたり、ストロボの光が遠くの被写体まで届くようになりますが、画像が粗くなります。

- ［ISO AUTO］では、シャッターボタンを半押しすると、自動設定されたISO感度が画面に表示されます。
- (p.53) では、シーンに応じて AUTO モードよりISO感度が高めに自動設定されます。

色あいを調整する（ホワイトバランス）

ホワイトバランス（WB）は、撮影シーンにあわせて自然な色あいにする機能です。

1 ホワイトバランスを選ぶ

- (FUNC./SET)を押したあと、▲か▼を押して［AWB］を選びます。

2 項目を選ぶ

- ◀か▶を押して項目を選び、(FUNC./SET)を押します。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

AWB	オート	撮影シーンに応じて自動設定
☀	太陽光	晴天の屋外
☁	くもり	曇り空や日陰、薄暮
💡	電球	電球、電球色タイプ（3波長型）の蛍光灯
蛍	蛍光灯	昼白色蛍光灯、白色蛍光灯、昼白色タイプ（3波長型）の蛍光灯
蛍H	蛍光灯H	昼光色蛍光灯、昼光色タイプ（3波長型）の蛍光灯
マ	マニュアル	手動設定

マニュアルホワイトバランス

撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを変えて、撮影時の光源に適した色あいで撮影できます。撮影場所の光源のもとで設定してください。

- 上記の手順2の操作で［マニュアル］を選びます。
- 画面いっぱいに白い無地の被写体が入るようにして、DISP.ボタンを押します。
- ▶ 白データが取り込まれて設定されると、画面の色あいが変わります。

白データを取り込んだあとにカメラの設定を変えると、適切な色あいにならないことがあります。

画像の色調を変える（マイカラー）

通常の撮影画像とは違った印象の画像にしたり、セピア調や白黒画像に変えることができます。

1 マイカラーを選ぶ

- (FUNC./SET)を押したあと、▲か▼を押して［OFF］を選びます。

2 項目を選ぶ

- ◀か▶を押して項目を選び、(FUNC./SET)を押します。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

OFF	マイカラー切	—
V	くっきりカラー	コントラストと色の濃さを強調し、くっきりした印象の色調になります。
N	すっきりカラー	コントラストと色の濃さをおさえ、すっきりとした印象の色調になります。
Se	セピア	セピア調になります。
BW	白黒	白黒になります。
C	カスタムカラー	画像の色調を自分好みに設定できます。

［Se］［BW］では、ホワイトバランス（p.68）は設定できません。

カスタムカラー

画像のコントラスト（明暗差）、シャープネス（先鋭度）、色の濃さを、それぞれ5段階から選んで設定できます。

- 上記の手順2の操作で［C］を選び、DISP.ボタンを押します。
- ▲か▼を押して項目を選び、◀か▶を押して値を設定します。
- 設定値が右側に行くほど強く／濃くなり、左に行くほど弱く／薄くなります。
- DISP.ボタンを押すと設定されます。

連続して撮る

シャッターボタンを全押ししている間、1秒間に最高約0.9枚の連続撮影できます。

1 ドライブモードを選ぶ

- (FUNC/SET)を押したあと、▲か▼を押して［□］を選びます。

2 項目を選ぶ

- ◀か▶を押して［連続撮影］を選び、(FUNC/SET)を押します。

3 撮影する

▶ シャッターボタンを全押ししている間、連続撮影されます。

- セルフタイマー（p.59、60、70、71）とは一緒に使えません。
- （p.53）では連続撮影の速度が速くなります。
- 撮影シーンやカメラの設定によっては、一定の間隔で撮影されなかったり、連続撮影の速度が遅くなることがあります。
- 連続撮影中は、シャッターボタンを半押ししたときのピント位置と露出に固定されます。
- 撮影枚数が多くなると、連続撮影の速度が遅くなることがあります。
- ストロボが発光するときは、連続撮影の速度が遅くなることがあります。

2秒のセルフタイマーで撮る

シャッターボタンを押してから約2秒後に撮影するため、シャッターボタンを押すときのカメラのブレを防ぐことができます。

［セルフタイマー2秒］を選ぶ

- ▼を押したあと、▲か▼を押して［セルフタイマー2秒］を選び、(FUNC/SET)を押します。

▶ 設定されると［セルフタイマー2秒］が表示されます。

- p.59の手順3の操作で撮影します。

セルフタイマーの時間と撮影枚数を変える

撮影されるまでのタイマー時間（0～30秒）と、撮影枚数（1～10枚）を設定できます。

1 [Ȼ] を選ぶ

- ▼を押したあと、▲か▼を押して [Ȼ] を選び、すぐにMENUボタンを押します。

2 設定する

- ▲か▼を押して［時間］または［枚数］を選びます。
- ◀か▶を押して数値を選び、FUNC/SETを押します。
- p.59の手順3の操作で撮影します。

? 撮影枚数を2枚以上にしたときは？

- 露出やホワイトバランスは、1枚目の撮影で固定されます。
- タイマー時間を2秒以上にしたときは、撮影の2秒前にランプの点滅（ストロボ発光時は点灯）と電子音が速くなります。

- ストロボが発光するときは、撮影間隔が長くなります。
- 撮影枚数を多くすると、撮影間隔が長くなることがあります。
- カードの容量がいっぱいになると、自動的に撮影が終わります。

テレビを使って撮る

カメラの画面表示をテレビに表示して撮影できます。

- 「テレビで見る」（p.91）の手順でカメラとテレビをつなぎます。
- 撮影操作は、カメラの画面を使ったときと同じです。

構図を変えて撮る（フォーカスロック撮影）

シャッターボタンを半押ししている間はピントと露出が固定され、そのまま構図を変えて撮影できます。これをフォーカスロック撮影といいます。

1 ピントを合わせる

- 撮りたいものを画面の中央にして、シャッターボタンを半押しします。
- AFフレームが、被写体に緑色で表示されていることを確認します。

2 構図を変える

- シャッターボタンを半押ししたまま、構図を変えます。

3 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。

5

もっとカメラを使いこなそう

この章では4章の応用編として、さらに多くの機能を使った撮影方法について説明しています。

- モードスイッチがで、**P**モードになっていることを前提に説明しています。
- 「長秒時露光で撮る」（p.80）は、モードスイッチをにして、モードを選んだときの説明をしています。
- この章で説明する機能を**P**モード以外で使うときは、それぞれの機能がどのモードで使えるか確認してください（p.120～123）。

AFフレームモードを変える

撮影シーンにあわせて、AF（自動ピント合わせ）フレームモードを変えられます。

AFフレーム　顔優先AiAF
デジタルズーム　入
ピント位置拡大　切
AF補助光　入
ストロボ設定...

［AFフレーム］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［■］タブの［AFフレーム］を選び、◀か▶を押して内容を選びます。

顔優先AiAF

- 人の顔を検出して、ピント、露出（評価測光時のみ）、ホワイトバランス（［AWB］時のみ）を合わせます。
- カメラを被写体に向けると、主被写体と判断した顔に白のフレーム、他の顔には最大2つの灰色のフレームが表示されます。
- 検出した顔が動いていると判別したときは、一定の範囲で追尾します。
- シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った顔には緑色のフレーム（最大9個）が表示されます。

- 顔が検出されないときや、白のフレームが表示されず灰色のフレームのみが表示されたときは、シャッターボタンを半押しすると、ピントの合った位置に緑色のフレーム（最大9個）が表示されます。
- 顔として検出できない例
  - 被写体までの距離が遠い、または極端に近い。
  - 被写体が暗い、または明るい。
  - 顔が横や斜めを向いている、または一部が隠れている。
- 人の顔以外を、誤って検出することがあります。
- シャッターボタンを半押ししてピントが合わないときは、AFフレームは表示されません。

中央

AFフレームが中央1点になります。確実なピント合わせに有効です。

AFフレームを小さくする

- MENUボタンを押して、[ ] タブの [AFフレームサイズ] で [小] を選びます。
- デジタルズーム（p.56）やデジタルテレコンバーター（p.57）使用時は、[標準] に設定されます。

シャッターボタンを半押ししてピントが合わないときは、黄色のAFフレームと［ ］が表示されます。

ピント位置を拡大表示する

シャッターボタンを半押ししたときに、AFフレームの位置を拡大表示してピントを確認することができます。

1 ［ピント位置拡大］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［ ］タブの［ピント位置拡大］を選び、◀か▶を押して［入］を選びます。

2 ピントを確認する

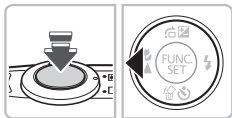
- シャッターボタンを半押しします。
- ▶［顔優先AiAF］（p.74）では、主被写体として検出された顔が拡大表示されます。
- ▶［中央］（p.74）では、中央のAFフレームが拡大表示されます。

拡大表示されない？

［顔優先AiAF］で、顔が検出できないときや、顔が画面に対して大きいとき、［中央］でピントが合わないときは拡大表示されません。

デジタルズーム（p.56）、デジタルテレコンバーター（p.57）、テレビに表示しているとき（p.72）は拡大表示されません。

AFロックで撮る

ピントを固定できます。固定後はシャッターボタンから指を放しても、ピント位置は固定されたままになります。

1 ピントを合わせて固定する

- シャッターボタンを半押ししたまま、◀を押します。
- ▶ピントが固定され、[AFL] が表示されます。
- シャッターボタンから指を放してもう一度◀を押すと、[AFL] が消え解除されます。

2 構図を決めて撮影する

測光モードを変える

撮影シーンにあわせて、測光モード（明るさを測る特性）を変えられます。

1 測光モードを選ぶ

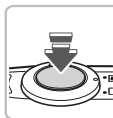
- (FUNC/SET)を押したあと、▲か▼を押して［(評価測光)］を選びます。

2 項目を選ぶ

- ◀か▶を押して項目を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶設定した項目が表示されます。

(評価測光アイコン)	評価測光	逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。撮影シーンに応じて、被写体が常に適正露出になるように自動補正します。
(中央部重点平均測光アイコン)	中央部重点平均測光	画面中央部に重点をおいて、画面全体を平均的に測光します。
(スポット測光アイコン)	スポット測光	画面中央に表示される［[ ]］（スポット測光枠）の範囲のみを測光します。

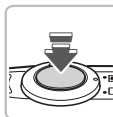
AEロックで撮る

露出を固定して撮影したり、ピントと露出を個別に設定して撮影することもできます。
AEは、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略です。

1 露出を固定する

- 露出を固定したい被写体にカメラを向け、シャッターボタンを半押ししたまま、▲を押します。
- ▶［AEL］が表示され、露出が固定されます。
- シャッターボタンから指を放してもう一度▲を押すと、［AEL］が消え解除されます。

2 構図を決めて撮影する

FEロックで撮る

ストロボ撮影時の露出を、AEロック撮影（上記）と同様に固定できます。
FEは、Flash Exposure（フラッシュエクスポージャー）の略です。

1 ［ϟ］を選ぶ（p.63）

（p.63）

2 ストロボ露出を固定する

- 露出を固定したい被写体にカメラを向け、シャッターボタンを半押ししたまま、▲を押します。
- ▶ストロボが発光し、［FEL］が表示され、ストロボ発光量が記憶されます。
- シャッターボタンから指を放してもう一度▲を押すと、［FEL］が消え解除されます。

3 構図を決めて撮影する

明るさを補正して撮る（i-コントラスト）

人の顔や背景など、一部が明るすぎたり暗すぎたりするときは、その部分を検出し、適切な明るさに自動補正して撮影することができます。また、画面全体で明暗差が小さいときは、くっきりした印象となるように自動補正して撮影することができます。

［i-コントラスト］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［📷］タブの［i-コントラスト］を選び、◀か▶を押して［自動］を選びます。

▶ 設定されると、［Ci］が表示されます。

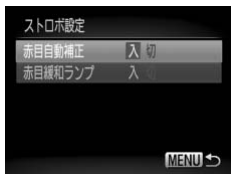
撮影シーンによっては画像が粗くなったり、正しく補正されないことがあります。

撮影した画像を補正することもできます（p.95）。

赤目自動補正

ストロボ撮影時に目が赤く写る現象を、自動補正して撮影できます。

1 ［ストロボ設定］を選ぶ

- MENU ボタンを押して［📷］タブの［ストロボ設定］を選び、(FUNC SET)を押します。

2 設定する

- ▲か▼を押して［赤目自動補正］を選び、◀か▶を押して［入］を選びます。
- ▶ 設定されると、［◎］が表示されます。

化粧などで目の周りが赤いときは、目以外を補正することがあります。

- 撮影した画像を補正することもできます（p.96）。
- ▶を押してからMENUボタンを押しても、手順2の画面を表示することができます。

スローシンクロで撮る

人などの主被写体は、ストロボが発光することで明るく撮影され、ストロボの光が届かない背景は、シャッタースピードを遅くすることで暗くなるのを軽減することができます。

1 ［⚡★］を選ぶ

- ▶を押したあと、◀か▶を押して［⚡★］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 設定されると、［⚡★］が表示されます。

2 撮影する

- ストロボが光っても、シャッター音が鳴り終わるまでは主被写体が動かないようにしてください。

手ブレを防ぐため、三脚などでカメラが動かないように固定してください。また、三脚などでカメラを固定するときは、［手ブレ補正］を［切］にして撮影することをおすすめします（p.109）。

長秒時露光で撮る

シャッタースピードを1～15秒の範囲に設定して、長秒時露光撮影ができます。なお、手ブレを防ぐため、三脚などでカメラを固定して撮影します。

1 [☆] を選ぶ

- p.52の手順1~3操作で [☆] を選びます。

2 シャッタースピードを選ぶ

- ▲を押します。
- ◀ か ▶ を押してシャッタースピードを選び、(FUNC. SET)を押します。

3 露出を確認する

- シャッターボタンを半押しすると、選んだシャッタースピードの露出で画面が表示されます。

- 手順3でシャッターボタンを半押ししたときの画面の明るさは、撮影される画像と異なることがあります。
- シャッタースピードが1.3秒以上のときは、撮影後にノイズ軽減処理を行うため、次の撮影までにしばらく時間がかかります。
- 三脚などでカメラを固定するときは、[手ブレ補正] を [切] にして撮影することをおすすめします(p.109)。

ストロボが発光すると、白トビした画像になることがあります。そのときは、ストロボを [⚡̸] にして撮影します。

6

動画のいろいろな機能を使ってみよう

この章では、1章の「動画を撮る」「動画を見る」の応用編として、さらにいろいろな機能を使って動画を撮る、見る方法について説明しています。

- モードスイッチが動画モード（'''）になっていることを前提に説明しています。

画質を変える

2種類の画質から選べます。

1 画質を選ぶ

- (FUNC/SET)を押したあと、▲か▼を押して［640］を選びます。

2 項目を選ぶ

- ◀か▶を押して項目を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

画質の一覧

画質（記録画素数／フレーム数）	内容
640 640×480画素／30フレーム/秒	標準的な動画です。
320 320×240画素／30フレーム/秒	640 より記録画素数が小さくなるため、画質は粗くなりますが、撮影時間を約3倍にできます。

撮影時間の目安

画質	撮影時間	
	4GB	16GB
640	32分26秒	2時間12分50秒
320	1時間31分25秒	6時間14分23秒

- 当社測定条件によるものです。
- 一度の撮影で動画の容量が4GBになるか、撮影時間が約1時間になると自動的に撮影が終わります。
- カードによっては、連続撮影時間に満たなくても、撮影が終わることがあります。SDスピードクラス4以上のカードを使用することをおすすめします。

AEロック／露出シフト

撮影前に露出を固定したり、露出を1/3段ずつ、±2段の範囲で変えられます。

1 ピントを合わせる

● シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。

2 露出を固定する

● シャッターボタンから指を放したあと、▲を押すと露出が固定されて露出シフトバーが表示されます。

● もう一度▲を押すと解除されます。

3 露出を変える

● 画面を見ながら、◀か▶を押して明るさを変えます。

4 撮影する

その他の撮影機能の操作方法

以下の機能は、静止画と同じ方法で使えます。

- 被写体をもっと拡大する（デジタルズーム）（p.56）
  撮影中にデジタルズームを使えますが、光学ズームは動作しません。そのため、最大倍率で撮りたいときは、撮影前に光学ズームを最大倍率にしておきます。撮影中のズーム操作音は記録されます。
- セルフタイマーを使う（p.59）
- 遠くの被写体を撮る（遠景撮影）（p.63）
- 近くの被写体を撮る（マクロ撮影）（p.64）
- 色あいを調整する（ホワイトバランス）（p.68）
- 画像の色調を変える（マイカラー）（p.69）
- 2秒のセルフタイマーで撮る（p.70）
- テレビを使って撮る（p.72）
- AFロックで撮る（p.76）
- AF補助光（ランプ）を切る（p.106）

- **撮影ガイドを表示する**（p.108）
  ［3:2ガイド］は使えません。
- **手ブレ補正の設定を変える**（p.109）
  ［入］、［切］の切り換えができます。

再生機能の操作方法

以下の機能は、静止画と同じ操作方法で使えます。

- **消す**（p.28）
- **画像を素早く探す**（p.86）
- **ジャンプ表示で画像を探す**（p.87）
- **スライドショーで見る**（p.88）
- **画像を切り換えたときの効果を変える**（p.90）
- **テレビで見る**（p.91）
- **保護する**（p.92）
- **まとめて消す**（p.93）
- **回転する**（p.93）

「動画を見る」（p.31）で表示される動画操作パネル一覧

アイコン	内容
⮌	終了
▶	再生
|▶	スロー再生（◀か▶で再生速度を変更。音声は再生されません）
|◀◀	先頭フレームを表示
◀||	フレーム戻し（FUNC SETを押し続けると早戻し）
||▶	フレーム送り（FUNC SETを押し続けると早送り）
▶▶|	最終フレームを表示
凸	PictBridge対応プリンターとつないだとき（p.98）に表示。 「はじめよう！おうちプリント」（p.2）を参照してください。

7

いろいろな再生と編集機能を使ってみよう

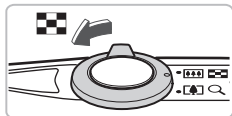
この章では、いろいろな画像の再生方法や編集方法について説明しています。

- ▶ボタンを押して、再生モードにしてから操作してください。

- パソコンで編集した画像やファイル名を変えた画像、このカメラ以外で撮影した画像は、再生や編集ができないことがあります。
- 編集機能（p.94～96）は、カードに空き容量がないと使えません。

画像を素早く探す

インデックス表示で画像を探す

複数の画像を一覧で表示して、目的の画像を素早く探せます。

1 ズームレバーを側へ押す

▶ インデックス表示になります。

● ズームレバーを側へ押すごとに、表示される画像の数が増えます。

● ズームレバーをQ側へ押すごとに、表示される画像の数が減ります。

2 画像を選ぶ

● ▲▼◀▶を押して画像を選びます。

▶ 選ばれている画像にはオレンジ色の枠が表示されます。

● FUNC./SETを押すと、選ばれている画像が1枚表示になります。

たくさんの画像の中から探す

ズームレバーを何回か側へ押すと、最大で100画像表示されます。さらにズームレバーを側へ押すと、画面全体にオレンジ色の枠が表示されます。この状態で▲か▼を押すと、100画像単位で表示が切り換わり、たくさんの画像の中からでも素早く目的の画像を探せます。

ジャンプ表示で画像を探す

カード内に多くの画像があるときは、指定した単位で画像をとばせます。

1 ジャンプ方法を選ぶ

- 1枚表示の状態で▲を押します。
- ▶ 画面の下部にジャンプ方法と、現在再生している画像の位置が表示されます。
- ▲か▼を押して目的のジャンプ方法を選びます。

現在再生中の画像の位置

2 画像を切り換える

- ◀か▶を押します。
- ▶ 選んだ方法でジャンプ表示されます。
- 1枚表示に戻すときは、MENUボタンを押します。

10枚ジャンプ	画像を10枚ずつとばして表示
100枚ジャンプ	画像を100枚ずつとばして表示
日付ジャンプ	各撮影日の先頭画像を表示
静止画ジャンプ	静止画のみ表示
動画ジャンプ	動画のみ表示

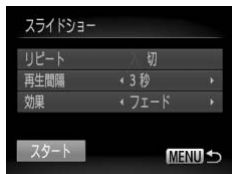
- ［10］［100］以外は、ジャンプ方法と一致する画像枚数が画面右側に表示されます。

目的のジャンプ方法と一致する画像がないときは、◀か▶を押しても機能しません。

スライドショーで見る

カードに記録されている画像を自動的に再生します。

1 ［スライドショー］を選ぶ

● MENUボタンを押して、［▶］タブの［スライドショー］を選び、(FUNC SET)を押します。

2 設定する

● ▲か▼を押して項目を選び、◀か▶を押して設定します。

リピート	繰り返し再生するかどうか
再生間隔	画像1枚あたりの表示時間
効果	画像を切り換えたときの見えかた

3 ［スタート］を選ぶ

● ▲か▼を押して［スタート］を選び、(FUNC SET)を押します。

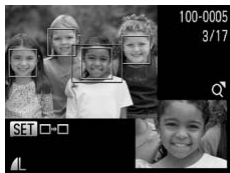
▶ ［画像読み込み中］が数秒間表示されたあと、スライドショーがはじまります。

● もう一度(FUNC SET)を押すと一時停止／再開ができます。

● MENUボタンを押すと終わります。

- 再生中に◀か▶を押すと、画像を切り換えられ、◀か▶を押したままにすると早送りできます。
- スライドショー中に節電機能は働きません（p.50）。

ピント位置を確認する（フォーカスチェッカー）

撮影時にピント合わせをしたAFフレームの位置や、顔を検出して撮影された顔の部分を、拡大表示することができます。

1 DISP.ボタンを押して、ピント位置確認表示にする（p.42）

▶ 撮影時にピント合わせを行ったAFフレームや、顔の位置に白のフレームが表示されます。

▶ 再生時に検出された顔の位置には、灰色のフレームが表示されます。

▶ オレンジ色のフレームの箇所が拡大表示されます。

2 拡大表示する箇所を変える

● ズームレバーをQ側へ一度押します。

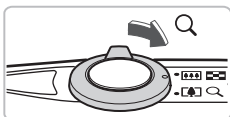
▶ 左の画面が表示されます。

● 複数のフレームが表示されているときは、(FUNC SET)を押すと別のフレームに移動します。

3 拡大率や表示位置を変える

● ズームレバーを操作して表示倍率を変えたり、▲▼◀▶を押して表示位置を変えながら確認します。

● MENU ボタンを押すと、手順 1 に戻ります。

拡大して見る

表示位置の目安

ズームレバーを🔍側へ押す

- 拡大表示になり［SET ⊡］が表示されて、押し続けると最大約10倍まで拡大できます。
- ▲▼◀▶を押すと、表示位置が移動します。
- ズームレバーを▦側へ押すと縮小表示になり、押し続けると1枚表示に戻ります。
- ［SET ⊡］が表示されている状態で(FUNC/SET)を押すと、［SET ⊡］表示に切り換わり、◀か▶を押すと拡大したまま画像を切り換えられます。もう一度(FUNC/SET)を押すともとに戻ります。

画像を切り換えたときの効果を変える

1枚表示で画像を切り換えたときの見えかた（効果）を、2種類から選べます。

［再生効果］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［再生効果］を選び、◀か▶を押して項目を選びます。

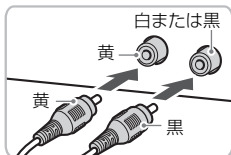
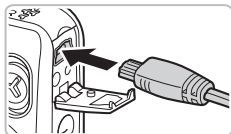
テレビで見る

付属のAVケーブル（p.2）でカメラとテレビをつなぎ、撮影した画像を見ることができます。

1 カメラとテレビの電源を切る

2 カメラとテレビをつなぐ

- ふたを開き、ケーブルのプラグをカメラの端子にしっかりと差し込みます。

- ケーブルのプラグを、図のようにテレビの入力端子へしっかりと差し込みます。

3 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えをケーブルでつないだ入力にする

4 カメラの電源を入れる

- ▶ボタンを押して電源を入れます。
- ▶ 画像がテレビに表示されます（カメラの画面には何も表示されません）。
- 見終わったらカメラとテレビの電源を切ってから、ケーブルを抜きます。

? 画像がテレビに正しく表示されないときは？

出力方式（NTSC/PAL）があわないと、画像が正しく表示されません。**MENU**ボタンを押して、［ÝŤ］タブの［ビデオ出力方式］で出力方式を変えてください（日本国内の出力方式は、「NTSC」です）。

保護する

大切な画像をカメラの消去機能（p.28、93）で誤って消さないよう、保護することができます。

1 ［保護］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［保護］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 画像を選ぶ

- ◀か▶を押して画像を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ ［⊶］が表示されます。
- もう一度(FUNC/SET)を押すと、［⊶］が消えます。
- 保護したい画像が複数あるときは、上記の操作を繰り返します。

3 保護する

- MENUボタンを押すと確認画面が表示されます。
- ◀か▶を押して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 保護されます。

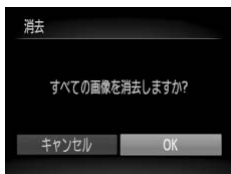
- カードを初期化（p.22、49）すると、保護された画像も消えます。
- 手順3の操作をする前に、撮影モードに切り換えたり電源を切ったときは、保護されません。

保護された画像は、カメラの消去機能では消えません。画像を消すときは、保護を解除してください。

まとめて消す

すべての画像をまとめて消すことができます。消した画像は復元できないので、十分に確認してから消してください。ただし、保護された画像（p.92）は消えません。

1 ［全消去］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［全消去］を選び、FUNC./SETを押します。

2 すべての画像を消す

- ◀か▶を押して［OK］を選び、FUNC./SETを押します。
- ▶ すべての画像が消えます。
- MENUボタンを押すとメニュー画面に戻ります。

回転する

画像の向きを変えて保存することができます。

1 ［回転］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［回転］を選び、FUNC./SETを押します。

2 回転する

- ◀か▶を押して画像を選びます。
- FUNC./SETを押すたびに90度単位で回転します。
- MENUボタンを押すとメニュー画面に戻ります。

画像を小さくする（リサイズ）

撮影した画像を小さな記録画素数にして、別画像として保存できます。

1 ［リサイズ］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［リサイズ］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 画像を選ぶ

- ◀か▶を押して画像を選び、(FUNC/SET)を押します。

3 大きさを選ぶ

- ◀か▶を押して大きさを選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶［新規保存しますか？］が表示されます。

4 新規保存する

- ◀か▶を押して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶別画像として保存されます。

5 画像を確認する

- MENUボタンを押すと、［保存した画像を表示します］が表示されます。
- ◀か▶を押して［はい］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶保存した画像が表示されます。

- 撮影した画像の記録画素数よりも大きくはできません。
- 記録画素数が［W］の画像（p.65）や、手順3で［XS］にした画像は、編集できません。

明るさを補正する（i-コントラスト）

人の顔や背景など、一部が暗く撮影された画像は、その部分を検出し、最適な明るさに自動補正します。また、画像全体で明暗差が小さい画像は、くっきりした印象となるように自動補正します。補正方法は、［自動］［弱］［中］［強］の4種類から選べます。補正した画像は別画像として保存します。

1 ［i-コントラスト］を選ぶ

● MENU ボタンを押して、［▶］タブの［i-コントラスト］を選び、FUNC/SETを押します。

2 画像を選ぶ

● ◀か▶を押して画像を選び、FUNC/SETを押します。

3 項目を選ぶ

● ◀か▶を押して項目を選び、FUNC/SETを押します。

4 新規保存して画像を確認する

● p.94の手順4〜5の操作を行います。

［自動］では思いどおりに補正されない？

［弱］［中］［強］のいずれかを選んで補正します。

- 画像によっては、画像が粗くなったり、正しく補正されないことがあります。
- 同じ画像に対して補正を繰り返すと、画像が粗くなることがあります。

赤目を補正する

目が赤く撮影されてしまった画像の赤目部分を自動的に補正して、別画像として保存できます。

1 ［赤目補正］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［赤目補正］を選び、(FUNC./SET)を押します。

2 画像を選ぶ

- ◀か▶を押して画像を選びます。

3 補正する

- (FUNC./SET)を押します。
- ▶ 検出された赤目部分が補正され、補正した部分に枠が表示されます。
- 「拡大して見る」（p.90）の操作で画像を拡大／縮小できます。

4 新規保存して画像を確認する

- ▲▼◀▶を押して［新規保存］を選び、(FUNC./SET)を押します。
- ▶ 別画像として保存されます。
- p.94の手順5の操作を行います。

- 画像によっては、正しく補正されないことがあります。
- 手順4で［上書き保存］を選んだときは、補正内容で上書きされるため、補正前の画像は残りません。
- 保護されている画像は上書き保存できません。

8

印刷してみよう

この章では、撮影した画像を、別売のキヤノン製PictBridge対応プリンター（p.38）で印刷する方法や、印刷する画像の指定方法について説明しています。
「はじめよう！おうちプリント」（p.2）もあわせて参照してください。

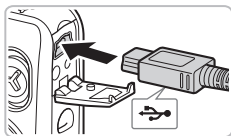
キヤノン製PictBridge対応プリンター

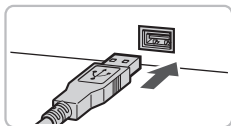
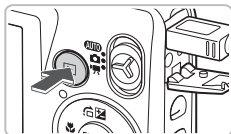
SELPHY シリーズ

PIXUS シリーズ

印刷する

撮影した画像は、カメラとPictBridge（ピクトブリッジ）対応プリンター（別売）を付属のインターフェースケーブル（p.2）でつないで、かんたんに印刷できます。

1 カメラとプリンターの電源を切る

2 カメラとプリンターをつなぐ

- ふたを開き、ケーブルの小さいプラグを図の向きにして、カメラの端子にしっかりと差し込みます。
- ケーブルの大きいプラグをプリンターに差し込みます。プリンターとのつなぎかたについては、プリンターの使用説明書を参照してください。

3 プリンターの電源を入れる

4 カメラの電源を入れる

- ▶ボタンを押して電源を入れます。
- ▶［ SET］が表示されます。

5 印刷する画像を選ぶ

- ◀か▶を押して画像を選び、FUNC./SETを押します。

6 印刷する

- ▲か▼を押して［印刷］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶印刷がはじまります。
- 別の画像を印刷するときは、印刷が終わったあと、手順5〜6の操作を繰り返します。
- 印刷が終わったらカメラとプリンターの電源を切り、ケーブルを抜きます。

- 印刷方法については、「はじめよう！おうちプリント」（p.2）を参照してください。
- キヤノン製PictBridge対応プリンター（別売）については、p.36、38を参照してください。

印刷指定（DPOF）

カード内の画像から印刷したい画像や印刷枚数などを指定して、一括印刷や写真店への印刷注文をすることができます（最大998画像）。なお、この指定方法は、DPOF（Digital Print Order Format）規格に準拠しています。

印刷内容の設定

印刷タイプや日付、画像番号といった印刷内容を設定できます。この設定は、印刷指定したすべての画像に共通して適用されます。

1 ［印刷の設定］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［凸］タブの［印刷の設定］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 設定する

- ▲か▼を押して項目を選び、◀か▶を押して設定します。
- MENUボタンを押すと設定され、メニュー画面に戻ります。

印刷タイプ	スタンダード	1枚の用紙に1枚の画像を印刷
	インデックス	1枚の用紙に縮小画像を複数印刷
	両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷
日付	入	撮影日を入れて印刷
	切	—
画像番号	入	画像番号を入れて印刷
	切	—
印刷後指定解除	入	印刷後、画像の印刷指定をすべて解除
	切	—

- プリンターまたは写真店によっては、設定した内容が反映されないことがあります。
- 他のカメラで設定したカードをこのカメラに入れると、［❗］が表示されることがあります。このカメラで設定を変えると、設定済みの内容がすべて書き換えられることがあります。
- ［日付］を［入］に設定すると、お使いのプリンターによっては、日付が重複して印刷されることがあります。

- ［インデックス］に設定したときは、［日付］と［画像番号］の両方を［入］にはできません。
- 日付の並びは、［ﾂ↑］タブの［日付/時刻］の設定で印刷されます（p.19）。

1枚ずつ枚数を指定する

1 ［印刷する画像を指定］を選ぶ

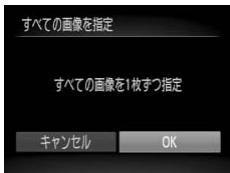
- MENUボタンを押して、［凸］タブの［印刷する画像を指定］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 画像を選ぶ

- ◀か▶を押して画像を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 枚数指定ができるようになります。
- ［インデックス］では、指定されると［✓］が表示され、もう一度(FUNC/SET)を押すと、解除されて［✓］が消えます。

3 枚数を設定する

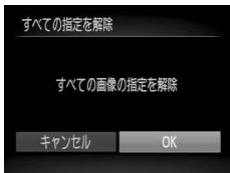
- ▲か▼を押して枚数を指定します（最大99枚）。
- 手順2～3の操作を繰り返して、画像と枚数を指定します。
- ［インデックス］では枚数の指定ができません。手順2の操作で画像のみを選んでください。
- MENUボタンを押すと設定され、メニュー画面に戻ります。

すべての画像を指定する

1 ［すべての画像を指定］を選ぶ

- p.101の手順1の操作で［すべての画像を指定］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 印刷指定する

- ◀か▶を押して［OK］を選び(FUNC/SET)を押します。

すべての指定を解除する

1 ［すべての指定を解除］を選ぶ

- p.101の手順1の操作で［すべての指定を解除］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 指定を解除する

- ◀か▶を押して［OK］を選び(FUNC/SET)を押します。

印刷指定（DPOF）した画像を印刷する

1 カメラとプリンターをつなぐ

- p.98の手順1～4の操作を行います。

2 印刷する

- ▲か▼を押して［すぐに印刷］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 印刷がはじまります。

9

カメラの設定を自分好みに変えよう

カメラの各種設定を撮影スタイルにあわせて変えられます。
章の前半では、ふだん使う上で便利な機能について説明しています。
章の後半では、撮影機能や再生機能を目的にあわせて変える方法について説明しています。

カメラの設定を変える

メニューの［ 𝑌𝑇 ］タブで設定します。ふだん使う上での便利な機能を自分好みに設定することができます（p.45）。

起動画面を表示しない

電源を入れたときに、起動画面を表示しないようにできます。

- ［起動画面］を選び、◀か▶を押して［切］を選びます。

画像番号のつけかたを変える

撮影した画像には、撮影した順に0001～9999の番号がつけられ、1つのフォルダに2000枚ずつ保存されます。この画像番号のつけかたを変えることができます。

- ［画像番号］を選び、◀か▶を押して内容を選びます。

通し番号	画像番号9999の画像が撮影／保存されるまでは、カードを交換して撮影しても連番になります。
オートリセット	カードを交換したり、フォルダが新しく作られたときは、画像番号が0001に戻ります。

- ［通し番号］［オートリセット］とも、交換するカードに画像が入っているときは、その画像番号の続き番号になることがあります。画像番号0001の画像から順に保存したいときは、初期化（p.49）したカードをお使いください。
- フォルダ構造や保存される画像については、「ソフトウェアガイド」を参照してください（p.2）。

フォルダを撮影日ごとに作る

撮影した画像を保存するフォルダは月ごとに作成されますが、撮影日ごとに作成することもできます。

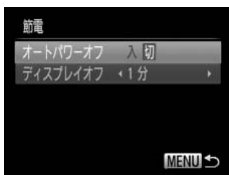
- ［フォルダ作成］を選び、◀か▶を押して［毎日］を選びます。
- 撮影日ごとに新しいフォルダが作られ、撮影した画像が保存されます。

レンズ収納時間を変える

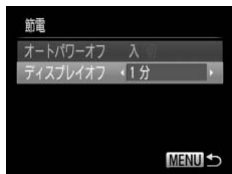
撮影状態から▶ボタンを押して約1分経過すると、安全のためレンズが収納されます（p.27）。▶ボタンを押すとすぐにレンズが収納されるようにしたいときは、収納時間を［0秒］に設定します。

- ［レンズ収納時間］を選び、◀か▶を押して［0秒］を選びます。

節電機能を切る

節電機能（p.50）を［切］にできます。バッテリーの消耗を防ぐため、通常は［入］をおすすめします。

- ［節電］を選び、(FUNC SET)を押します。
- ▲か▼を押して［オートパワーオフ］を選び、◀か▶を押して［切］を選びます。
- ［切］にすると節電機能は働きません。電源の切り忘れに注意してください。

画面が消えるまでの時間を変える

節電機能（p.50）が働いて、画面が自動的に消えるまでの時間を設定できます。なお、［オートパワーオフ］が［切］のときも働きます。

- ［節電］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▲か▼を押して［ディスプレイオフ］を選び、◀か▶を押して時間を選びます。
- バッテリーの消耗を防ぐため、通常は［1分］以下をおすすめします。

撮影機能の設定を変える

モードスイッチを📷にしてPモードにし、メニューの［📷］タブで設定します（p.45）。

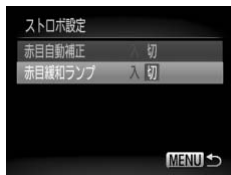
ここで説明する機能をPモード以外で使うときは、それぞれの機能がどのモードで使えるか確認してください（p.122〜123）。

AF補助光（ランプ）を切る

暗いところでシャッターボタンを半押しすると、ピントを合わせるためにランプ（前面）が点灯します。このランプを点灯しないようにすることができます。

- ［AF補助光］を選び、◀か▶を押して［切］を選びます。

赤目緩和機能（ランプ）を切る

暗いところでのストロボ撮影では、人の目が赤く撮影されることを緩和するため、ランプ（前面）が点灯します。このランプを点灯しないようにすることができます。

- ［ストロボ設定］を選び、(FUNC SET)を押します。
- ▲か▼を押して［赤目緩和ランプ］を選び、◀か▶を押して［切］を選びます。

撮影直後の画像表示時間を変える

撮影直後に画像が表示される時間を変えられます。

- ［撮影の確認］を選び、◀か▶を押して内容を選びます。

2～10秒	設定した時間だけ画像を表示します。
ホールド	シャッターボタンを半押しするまで画像を表示します。
切	画像は表示されません。

撮影直後の画面表示を変える

撮影直後の画面表示を変えることができます。

● [レビュー情報] を選び、◀か▶を押して内容を選びます。

非表示	撮影した画像だけを表示します。
詳細表示	詳細情報表示（p.42）になります。
ピント確認	AFフレームの位置を拡大表示して、ピントを確認することができます。操作方法は、「ピント位置を確認する（フォーカスチェッカー）」（p.89）と同じです。

撮影ガイドを表示する

撮影のときに垂直、水平の目安になる格子線や、L判、はがきなど、縦横比が3:2の用紙に印刷するときの目安となるガイドを、画面上に表示することができます。

● [撮影ガイド] を選び、◀か▶を押して内容を選びます。

グリッドライン	格子線が画面に表示されます。
3:2ガイド	上下に灰色の帯が表示されます。この部分は縦横比が3:2の用紙に印刷されません。
両方	グリッドラインと3:2ガイドの両方が表示されます。

- [W] では、[3:2ガイド] [両方] は設定できません。
- 「グリッドライン」は画像に記録されません。
- [3:2ガイド] の灰色の部分は、印刷されない領域を示しています。実際の画像は、灰色の部分も画像として記録されます。

手ブレ補正の設定を変える

● ［手ブレ補正］を選び、◀か▶を押して内容を選びます。

入	常時手ブレを補正します。画面上で補正効果が確認できるため、構図の確認やピント合わせがしやすくなります。
撮影時	撮影される瞬間のみ手ブレを補正します。
流し撮り	上下方向だけブレを補正します。横方向に動いているものをカメラで追いかけて撮影するときに適しています。

- 手ブレを補正しきれないときは、三脚などでカメラを固定してください。また、三脚などでカメラを固定するときは、［切］にすることをおすすめします。
- ［流し撮り］は、カメラを横位置にして撮影してください。カメラが縦位置では補正されません。

再生機能の設定を変える

▶ボタンを押して、メニューの［▶］タブで設定します（p.45）。

再生したときに表示する画像を選ぶ

● ［再生開始位置］を選び、◀か▶を押して内容を選びます。

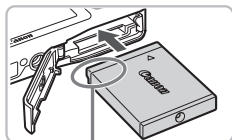
前回の画像	再生したときに、前回最後に再生した画像が表示されます。
最新の画像	再生したときに、撮影した最新画像が表示されます。

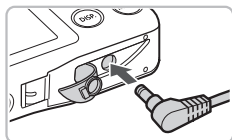
10

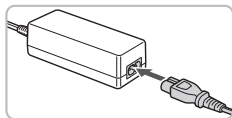
カメラを使うときに役立つ情報

ACアダプターキット（別売）の使いかたや、「故障かな？と思ったら」のほか、画面表示の一覧やカメラの機能一覧を掲載しています。また、章の最後には索引を掲載しています。

家庭用電源でカメラを使う

ACアダプターキットACK-DC40（別売）を使うと、バッテリーの残量を気にせずにカメラを使うことができます。

1 カプラーを入れる

- ふたを開き（p.16）、カプラーを図の向きにして、「カチッ」と音がしてロックされるまで差し込みます。
- ふたを閉めます（p.17）。

2 プラグをカプラーにつなぐ

- カバーを開き、アダプターのプラグをカプラーの端子にしっかりと差し込みます。

3 電源コードを取り付ける

- 電源コードをアダプターに差し込み、プラグをコンセントに差し込みます。
- カメラの電源を入れると、カメラが使えます。
- 使い終わったら、カメラの電源を切ってからプラグをコンセントから抜いてください。

カメラの電源を入れたまま、プラグや電源コードを抜かないでください。撮影した画像が消えたり、カメラが故障することがあります。

故障かな？と思ったら

「カメラが故障したのかな？」と考える前に、下記の例を参考に確認してください。ただし、問題が解決しないときは、別紙の相談窓口へご相談ください。

電源

電源ボタンを押してもカメラが動作しない

- 指定されたバッテリーで、残量があることを確認してください（p.15）。
- バッテリーが正しい向きで入っているか確認してください（p.17）。
- カード／バッテリー収納部ふたが閉じているか確認してください（p.17）。
- バッテリーの端子が汚れているとバッテリー性能が低下します。綿棒などで端子を拭き、バッテリーを数回入れなおしてください。

バッテリーの消耗が早い

- 低温下ではバッテリー性能が低下します。端子カバーを付けて、ポケットなどでバッテリーを温めてからお使いください。

レンズが出たままで収納されない

- 電源を入れたまま、カード／バッテリー収納部ふたを開けないでください。ふたを閉じたあと、電源を入れてからもう一度切ってください（p.17）。

テレビ表示

テレビに表示できない／画面が乱れる（p.91）

撮影

撮影できない

- 再生モードのとき（p.27）は、シャッターボタンを半押ししてください（p.23）。

暗い場所での画面表示がおかしい（p.43）

撮影中の画面表示がおかしい

以下のときは、静止画には記録されませんが、動画には記録されます。注意してください。

- カメラに強い光があたると、表示が黒くなることがあります。
- 蛍光灯下で撮影すると、画面がちらつくことがあります。
- 明るい光源を撮影すると、画面に赤紫色の帯が表示されることがあります。

シャッターボタンを押したら、画面に［ϟ］が点滅表示されて撮影できない（p.26）

シャッターボタンを半押ししたときに、［手ブレ警告］が表示される（p.55）

- ［手ブレ補正］を［入］にしてください（p.109）。
- ストロボを［ϟ］にしてください（p.63）。
- ISO感度を高くしてください（p.67）。
- 三脚などでカメラを固定してください。

画像がボケて撮影されている
- シャッターボタンを半押ししてピントを合わせてから、撮影してください（p.23）。
- 撮影距離範囲内に被写体を収めて撮影してください（p.126）。
- ［AF補助光］を［入］にしてください（p.106）。
- 意図しない機能（マクロ撮影など）が設定されていないか確認してください。
- フォーカスロック、AFロックで撮影してください（p.72、76）。

シャッターボタンを半押ししても、AFフレームが表示されずピントが合わない
- 被写体の明暗差がある部分を画面中央にしてシャッターボタンを半押しするか、半押しを何度か繰り返すとAFフレームが表示され、ピントが合うことがあります。

被写体が暗すぎる
- ストロボを［⚡］にしてください（p.63）。
- 露出補正で明るさを調整してください（p.62）。
- i-コントラストで補正してください（p.78、95）。
- AEロックまたはスポット測光で撮影してください（p.77、76）。

被写体が明るすぎる（白トビする）
- ストロボを［⊘］にしてください（p.55）。
- 露出補正で明るさを調整してください（p.62）。
- AEロックまたはスポット測光で撮影してください（p.77、76）。
- 被写体にあたっている照明を弱めてください。

ストロボが光ったのに暗い画像になった（p.26）
- ISO感度を高くしてください（p.67）。
- ストロボ撮影に適した距離で撮影してください（p.63）。

ストロボ撮影した画像の被写体が明るすぎる（白トビする）
- ストロボ撮影に適した距離で撮影してください（p.63）。
- ストロボを［⊘］にしてください（p.55）。

ストロボ撮影時、画像に白い点などが写る
- 空気中のちりなどにストロボ光が反射しました。

画像が粗い感じになる
- ISO感度を低くして撮影してください（p.67）。
- 撮影モードによってはISO感度が高くなるため、粗い感じの画像になることがあります（p.54、67）。

目が赤く写る（p.78）
- ［赤目緩和ランプ］を［入］に設定してください（p.109）。ストロボ撮影のときは、ランプ（前面）（p.40）が点灯して、約1秒間は赤目現象を緩和するため撮影できません。また、写される人がランプを見ているときに効果があります。「室内を明るくする」、「写したい人に近づく」と効果が上がります。

カードへの画像の記録時間が長い、または連続撮影速度が遅くなった
- カードをこのカメラで物理フォーマットしてください（p.49）。

撮影機能やFUNC.メニューの設定ができない

- 設定できる項目は撮影モードによって異なります。「撮影機能／FUNC.メニュー 一覧」（p.120〜123）で確認してください。

動画撮影

正しい撮影時間が表示されない、または中断される

- カードをこのカメラで初期化するか、書き込み速度の速いカードを使ってください。撮影時間が正しく表示されないときも、カードには実際に撮影した時間の動画が撮影されています（p.30、82）。

画面に［ ❗ ］が表示され、撮影が自動的に終わった

カメラの内部メモリーが少なくなりました。以下の方法を試してください。

- カードをこのカメラで物理フォーマットする（p.49）。
- 画質を変える（p.82）。
- 書き込み速度の速いカードを使う（p.49）。

ズームできない

- 撮影中はデジタルズームを使えますが、光学ズームは動作しません（p.83）。

再生

再生できない

- パソコンでファイル名やフォルダ構造を変えると再生できないことがあります。ファイル名やフォルダ構造については、「ソフトウェアガイド」（p.2）を参照してください。

再生が中断する、または音声が途切れる

- このカメラで初期化したカードをお使いください（p.49）。
- 動画を、読み込み速度の遅いカードにコピーして再生すると、再生が一瞬中断することがあります。
- パソコンで動画を再生するとき、パソコンの性能によっては、画像がフレーム（コマ）落ちしたり、音声が途切れたりすることがあります。

パソコン

画像をパソコンに取り込めない

カメラとパソコンをケーブルでつないで取り込むときは、以下の操作で画像の取り込み速度を遅くすることで、問題が解決できることがあります。

- MENUボタンを押したまま、▲と(FUNC/SET)を同時に押します。表示された画面で［B］を選んで(FUNC/SET)を押します。

画面に表示されるメッセージ一覧

画面にメッセージが表示されたときは、以下のように対応してください。

カードがありません

- カードが正しい向きで入っていません。カードを正しい向きで入れます（p.17）。

カードがロックされています

- SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードのスイッチが「LOCK」側（書き込み禁止）になっています。スイッチを書き込みできる方へ切り換えます（p.16）。

記録できません

- カードが入っていない状態で撮影しました。撮影するときは、カードを正しい向きで入れます（p.17）。

カードが異常です（p.49）

- 初期化したカードを正しい向きで入れても同じ表示が出るときは、別紙の相談窓口へご相談ください（p.17）。

カード残量が足りません

- カードの空き容量がないため、撮影（p.24、51、61、73）や編集（p.94～96）はできません。画像を消して（p.28、93）空き容量を作るか、空き容量のあるカードに交換します（p.17）。

バッテリーを交換してください（p.17）

画像がありません

- カードに表示できる画像が入っていません。

保護されています（p.92）

認識できない画像です／互換性のないJPEGです／画像が大きすぎます／再生できません（MOV）／RAW

- 非対応の画像やデータが壊れている画像は表示できません。
- パソコンで加工したり、ファイル名を変えたりした画像や、このカメラ以外で撮影した画像は、表示できないことがあります。

拡大できない画像です／回転できない画像です／処理できない画像です／指定できない画像です

- 非対応の画像は、拡大（p.90）、回転（p.93）、編集（p.94～96）、印刷指定（p.100）はできません。
- パソコンで編集した画像やファイル名を変えた画像、このカメラ以外で撮影した画像は、拡大、回転、編集、印刷指定はできないことがあります。
- 動画は拡大（p.90）できません。

指定枚数の上限を超えています

- 印刷指定の画像を998枚より多く指定しました。指定する画像を998枚以下にします（p.100）。
- 印刷指定を正しく保存できませんでした。指定枚数を減らして、もう一度指定します（p.100）。

通信エラー

- カードに大量の画像（1000枚程度）があるため、パソコンに画像を取り込んだり印刷したりできません。パソコンへ取り込むときは、カードリーダー（市販品）を使います。印刷するときは、プリンターのカードスロットにカードを差して印刷します。

ファイル名が作成できません

- カメラが作成しようとしたフォルダや画像と同じファイル名があるとき、画像番号が最大値になっているときは、フォルダや画像が作成できません。[ꟸ] メニューで[画像番号]を[オートリセット]に変えるか(p.104)、カードを初期化します(p.49)。

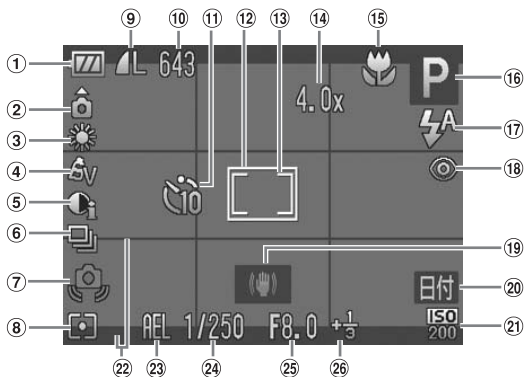
レンズエラーを検知しました

- レンズ動作中にレンズを押さえたり、ホコリや砂ボコリの立つ場所などでカメラを使うと表示されることがあります。
- 頻繁に表示されるときは故障が考えられますので、別紙の相談窓口へご相談ください。

カメラがエラーを検知しました（エラー番号）

- 撮影直後に表示されたときは、撮影されていないことがあります。再生して画像を確認してください。
- 頻繁に表示されるときは故障が考えられますので、エラー番号（Exx）を控えて、別紙の相談窓口へご相談ください。

画面の表示内容一覧

撮影時（情報表示あり）

① バッテリー残量表示（p.15）
② カメラ位置*
③ ホワイトバランス（p.68）
④ マイカラー（p.69）
⑤ i-コントラスト（p.78）
⑥ ドライブモード（p.70）
⑦ 手ブレ警告（p.113）
⑧ 測光モード（p.76）
⑨ 圧縮率（画質）（p.65）／記録画素数（p.65、82）
⑩ 静止画：撮影可能枚数（p.15、66）
動画：撮影可能時間（p.30、82）
⑪ セルフタイマー（p.59、70、71）
⑫ AFフレーム（p.25）
⑬ スポット測光枠（p.76）
⑭ デジタルズーム倍率（p.56）、デジタルテレコンバーター（p.57）
⑮ フォーカスゾーン（p.63、64）、AFロック（p.76）
⑯ 撮影モード（p.40）
⑰ ストロボモード（p.55、63、79）
⑱ 赤目自動補正（p.78）
⑲ 手ブレ補正（p.109）
⑳ 日付写し込み（p.58）
㉑ ISO感度（p.67）
㉒ 撮影ガイド（p.108）
㉓ AEロック（p.77）、FEロック（p.77）
㉔ シャッタースピード
㉕ 絞り数値
㉖ 露出補正量（p.62）

＊ ：通常、 ：カメラを縦位置に構えたとき
撮影時にカメラの向きを検知して最適な撮影ができるよう制御され、再生時には、カメラが縦向きでも横向きでも、画像が自動的に回転して正位置で見ることができます。ただし、カメラを真上や真下に向けると正しく検出できないことがあります。

再生時（詳細情報表示）

① 撮影モード（p.40）
② ISO感度（p.67）
③ 露出補正量（p.62）、露出シフト量（p.83）
④ ホワイトバランス（p.68）
⑤ ヒストグラム（p.43）
⑥ 画像編集（p.94～96）
⑦ 圧縮率（画質）（p.65）
⑧ 記録画素数（p.65）、AVI（動画）
⑨ バッテリー残量表示（p.15）
⑩ 測光モード（p.76）
⑪ フォルダ番号－画像番号（p.105）
⑫ 再生画像番号／総画像数
⑬ シャッタースピード
⑭ 絞り数値、画質（動画）（p.82）
⑮ ストロボ発光（p.63）
⑯ i-コントラスト（p.78、95）
⑰ フォーカスゾーン（p.63、64）
⑱ ファイルサイズ（p.65）
⑲ 静止画：記録画素数（p.65）
動画：撮影時間（p.82）
⑳ 保護（p.92）
㉑ マイカラー（p.69）
㉒ 赤目補正（p.78、96）
㉓ 撮影日時（p.19）

撮影機能／FUNC.メニュー 一覧

機能	撮影モード	AUTO			
			P		
露出補正（p.62）		－	○	○	○
AEロック / FEロック（p.77）		－	○	－	－
AEロック ・露出シフト（p.83）		－	－	－	－
フォーカスゾーン（p.63、64）		－	○	－	－
		○	○	○	○
		－	○	－	－
AFロック（p.76）		－	○	－	－
ストロボ（p.55、63、79）＊3	A	○	○	○	○
		－	○	○	○
		＊1	○	－	＊2
		○	○	○	○
セルフタイマー（p.59、70、71）	OFF	○	○	○	○
	10 2	○	○	○	○
	C ＊3	○	○	○	○
FUNC.メニュー 一覧					
ISO感度（p.67）	ISO AUTO	○	○	○	○
	ISO 80 ISO 100 ISO 200 ISO 400 ISO 800 ISO 1600	－	○	－	－
ホワイトバランス（p.68）	AWB	○	○	○	○
		－	○	－	－
マイカラー（p.69）	OFF	○	○	○	○
	V N Se BW C	－	○	－	－
測光モード（p.76）		○	○	○	○
	[ ]	－	○	－	－
ドライブモード（p.70）		○	○	○	○
		－	○	○	○
記録画素数（p.65）、圧縮率（画質）（p.65、82）		○	○	○	○

＊1 選択不可ただし状況に応じて自動で発光
＊2 選択不可ただしストロボ発光時は［ ］
＊3［時間］は0～30秒、［枚数］は1～10枚まで設定可能
＊4 記録画素数は［ M ］固定、圧縮率は選択可能

○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○
－	－	－	－	－	○	－	－	－	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
－	－	－	－	－	○	－	－	－	○	○
－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－
○	○	○	－	○	○	○	○	－	○	－
－	－	－	－	－	－	－	－	－	＊2	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	－

FUNC.メニュー 一覧

○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○
－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
－	－	－	○	－	－	－	－	－	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	－
○	○	○	＊4	○	○	○	○	○	○	○

○選択可能または自動設定　－選択不可

メニュー 一覧

撮影タブメニュー 一覧

機能		撮影モード	AUTO	P		
AFフレーム（p.74）	顔優先AiAF		○	○	○	○
	中央		−	○	○	○
AFフレームサイズ（p.75）	標準／小		−	○	−	−
デジタルズーム（p.56）	入		○	○	○	○
	切		○	○	○	○
	テレコン1.5x / テレコン2.0x		○	○	○	○
ピント位置拡大（p.75）	入 / 切		○	○	○	○
AF補助光（p.106）	入 / 切		○	○	○	○
ストロボ設定（p.78、107）	赤目自動補正	入 / 切	○	○	○	○
	赤目緩和ランプ	入 / 切	○	○	○	○
i-コントラスト（p.78）	自動 / 切		＊2	○	−	−
撮影の確認（p.107）	切 / 2〜10秒 / ホールド		○	○	○	○
レビュー情報（p.108）	非表示 / 詳細表示 / ピント確認		○	○	○	○
撮影ガイド（p.108）	切 / グリッドライン		○	○	○	○
	3:2ガイド / 両方		○	○	○	○
手ブレ補正（p.109）	入		○	○	○	○
	切		−	○	○	○
	撮影時 / 流し撮り		−	○	○	○
日付写し込み（p.58）	切 / 日付のみ / 日付+時刻		○	○	○	○

＊1 AiAFのみ　＊2常時［自動］

○	○	○	○	○	○	○	○	–	○	*1
○	○	–	–	○	○	○	○	○	○	–
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
○	○	○	–	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	–	○	○	○	○	○	○	–
○	○	○	○	○	○	○	○	–	○	–
○	○	○	○	○	○	○	○	–	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	–	○	–
○	○	○	○	○	○	○	○	–	○	–
–	–	–	*2	–	–	–	–	–	–	–
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–
○	○	○	–	○	○	○	○	○	○	–

○選択可能または自動設定　–選択不可

設定タブメニュー 一覧

項目	内容	参照ページ
消音	する / しない*	p.46
音量	各種操作音を5段階に設定	p.46
液晶の明るさ	±2の範囲で設定	p.47
起動画面	入* / 切	p.104
カードの初期化	記録内容を初期化して消去	p.22、49
画像番号	通し番号* / オートリセット	p.104
フォルダ作成	毎月* / 毎日	p.105
レンズ収納時間	1分* / 0秒	p.105
節電	オートパワーオフ：入* / 切 ディスプレイオフ：10～30秒 / 1*～3分	p.50、105
日付 / 時刻	日付 / 時刻の設定	p.20
ビデオ出力方式	NTSC* / PAL	p.91
言語	表示言語を選択	p.21
カメラ設定初期化	カメラの設定を初期状態に戻す	p.48

* 初期設定

再生タブメニュー 一覧

項目	内容	参照ページ
スライドショー	画像の自動再生	p.88
全消去	画像の一括消去	p.93
保護	画像の保護	p.92
回転	画像の縦横回転	p.93
i-コントラスト	静止画の暗い部分やコントラストを補正	p.95
赤目補正	静止画の赤目部分を補正	p.96
リサイズ	静止画を小さくして保存	p.94
再生開始位置	前回の画像* / 最新の画像	p.109
再生効果	フェード* / スライド / 切	p.90

* 初期設定

印刷タブメニュー 一覧

項目	内容	参照ページ
印刷	印刷画面を表示	p.98
印刷する画像を指定	印刷する画像を1枚ずつ指定	p.101
すべての画像を指定	すべての画像を印刷する画像に指定	p.102
すべての指定を解除	すべての印刷指定を解除	p.102
印刷の設定	印刷のスタイルを設定	p.100

日ごろの取り扱いについて

- カメラは精密機器です。落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- カメラを磁石やモーターなどの、強力な磁場を発生させる装置の近くに、絶対に置かないでください。電磁波により、カメラが誤作動したり、記録した画像が消えたりすることがあります。
- カメラや画面に水滴や汚れがついたときは、メガネ拭きなどのやわらかい布で拭きとってください。ただし、強くこすったり、押したりしないでください。
- 有機溶剤を含むクリーナーなどでは、絶対にカメラや画面を拭かないでください。
- レンズにゴミがついているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。汚れがひどいときは、別紙の相談窓口にご相談ください。
- カメラを寒いところから急に暑いところへ移すと、カメラに結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから暑いところへ移すときは結露の発生を防ぐため、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因となりますのでカメラを使わないでください。バッテリー、カードをカメラから取り出し、水滴が消えてから、カメラを使ってください。

主な仕様

カメラ部有効画素数	約1210万画素
撮影素子	1/2.3型CCD（総画素数 約1270万画素）
レンズ	5.0（W）－ 20.0（T）mm 35mmフィルム換算：28（W）－ 112（T）mm F2.8（W）－ F5.9（T）
ズーム倍率	4.0倍（デジタルズームとあわせて最大16倍相当）
液晶モニター	2.7型TFT液晶カラーモニター 約23.0万ドット、視野率約100％
AFフレームモード	顔優先AiAF / 中央
撮影距離（レンズ先端より）	オート、ローライト：3cm～∞（W）、50cm～∞（T） 通常撮影：5cm～∞（W）、50cm～∞（T） マクロ：3cm～50cm（W） 遠景：3m～∞ キッズ&ペット：1m～∞
シャッター	メカニカルシャッター・電子シャッター併用
シャッタースピード	1～1/1500秒 15～1/1500秒（すべての撮影モードをあわせたシャッタースピード範囲）
手ブレ補正	レンズシフト方式
測光方式	評価 / 中央部重点平均 / スポット
露出補正	±2段（1/3段ステップ）
ISO感度 （標準出力感度・推奨露光指数）	オート、ISO80 / 100 / 200 / 400 / 800 / 1600
ホワイトバランス	オート / 太陽光 / くもり / 電球 / 蛍光灯 / 蛍光灯H / マニュアル
内蔵ストロボ	オート / 常時発光 / スローシンクロ / 発光禁止 ＊赤目自動補正 / 赤目緩和ランプ / FEロック設定可能
内蔵ストロボ調光範囲	30cm～4.0m（W）/ 50cm～2.0m（T）
撮影モード	オート / プログラムAE / ポートレート / ナイトスナップ / キッズ&ペット / パーティー・室内 / 顔セルフタイマー / ローライト / ビーチ / 水中 / 新緑・紅葉 / スノー / 打上げ花火 / 長秒時撮影 / 動画
連続撮影	約0.9枚/秒
セルフタイマー	10秒 / 2秒 / カスタム
i-コントラスト	自動 / 切
記録媒体	SDメモリーカード / SDHCメモリーカード / SDXCメモリーカード / MMCカード / MMCplusカード / HC MMCplusカード
ファイルフォーマット	DCF準拠*、DPOF対応（version1.1） ＊DCFは（社）電子情報技術産業協会（JEITA）で標準化された規格「Design rule for Camera File system」の略称です。
データタイプ	静止画：Exif 2.2（JPEG） 動画：AVI（画像：Motion JPEG、音声：WAVE（モノラル））

記録画素数（静止画）..................ラージ：4000×3000画素、ミドル1：3264×2448画素
ミドル2：2592×1944画素、ミドル3：1600×1200画素
スモール：640×480画素、ワイド：4000×2248画素
（動画）.............. 640×480画素（30フレーム/秒*）
320×240画素（30フレーム/秒*）
＊30フレーム/秒は本機では29.97フレーム/秒です。
圧縮率（静止画）..........................ファイン / ノーマル
撮影可能枚数CIPA準拠）............約240枚
再生機能 .... 1画像再生 / 動画再生 / ピント位置拡大 / インデックス再生 / 拡大再生 / スライドショー
編集機能..消去 / 保護 / リサイズ / i-コントラスト / 回転 / 赤目補正
ダイレクトプリント方式 .... PictBridge対応
インターフェース ....デジタル入出力：Hi-Speed USB（mini-B互換）*
アナログ音声出力：モノラル*
アナログ映像出力：NTSC/PAL切り換え可能*
＊デジタル/音声・映像一体型コネクター（メス）
通信プロトコル設定 .... MTP、PTP
電源..バッテリーパックNB-6L（専用リチウムイオン充電池）
ACアダプターキットACK-DC40
動作温度 .... 0～40℃
動作湿度 .... 10～90%
大きさ（CIPA準拠）...................90.5×55.8×21.2mm
質量（CIPA準拠）.........................約140g（バッテリー・メモリーカード含む）
約117g（本体のみ）

バッテリーパックNB-6L

形式...リチウムイオン充電池
公称電圧 DC3.7V
公称容量 1000mAh
充放電...約300回
使用温度 .... 0～40℃
大きさ .... 34.4×41.8×6.9mm
質量..約21g

バッテリーチャージャー CB-2LY

定格入力 .... AC100～240V（50/60Hz）、0.085A（100V）～0.05A（240V）
定格出力 .... DC4.2V、0.7A
充電時間...約1時間55分
使用温度 .... 0～40℃
大きさ .... 58.6×86.4×24.1mm
質量..約70g

- 記載データはすべて当社試験基準によります。
- 製品の仕様および、外観の一部を予告なく変更することがあります。

- 不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。
詳細は、有限責任中間法人JBRCのホームページをご参照ください。
ホームページ：http://www.jbrc.com
- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

補修用性能部品について

保守サービスのために必要な補修用性能部品の最低保有期間は、製品の製造打切り後7年間です。（補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）なお、弊社の判断により保守サービスとして同一機種または同程度の仕様の製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけない場合もあります。

妨害電波自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。カメラユーザーガイド（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

索引

【英数字】

【あ】

【か】

【さ】

【た】

【な】

【は】

商標、ライセンスについて

- DCFは、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。
- SDXCロゴはSD-3C,LLC.の商標です。
- 本機器は、Microsoft からライセンスされた exFAT 技術を搭載しています。

このガイドについて

- 内容の一部または全部を無断で転載することは、禁止されています。
- 内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。
- イラストや画面表示は、実際と一部異なることがあります。
- 内容については万全を期していますが、万一不審な点や誤り、記載もれなど、お気付きの点がありましたら、別紙の相談窓口までご連絡ください。

キヤノン株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒108-8011 東京都港区港南2-16-6

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お客様相談センター　050-555-90005

受付時間：平日 9：00～20：00／土・日・祝日 10：00～17：00
（1月1日～1月3日は休ませていただきます）

※ 海外からご利用の方、または050からはじまるIP電話番号をご利用いただけない方は、043-211-9630をご利用ください。

※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

CDI-J407-010　XXXXXXX　　PRINTED IN CHINA